

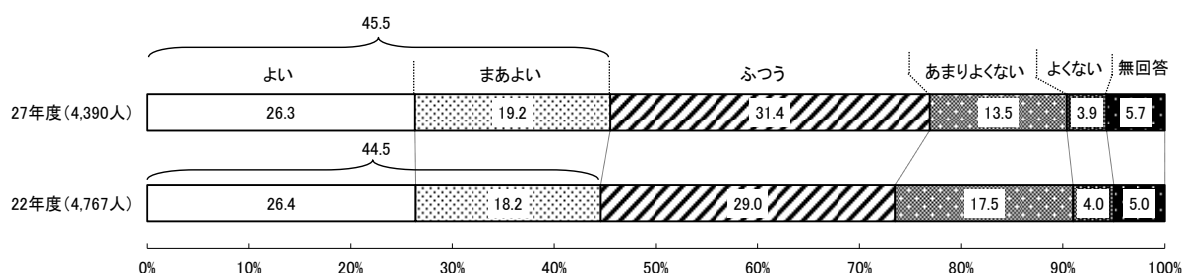
### 第3章 健康

#### 1 健康意識

「よい」と「まあよい」を合わせた割合は45.5%

対象者全員に、健康状態をどのように感じているか聞いたところ、「ふつう」の割合が最も高く31.4%、次いで「よい」が26.3%となっている。また、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は45.5%となっている。(図3-1)

図3-1 健康意識



注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

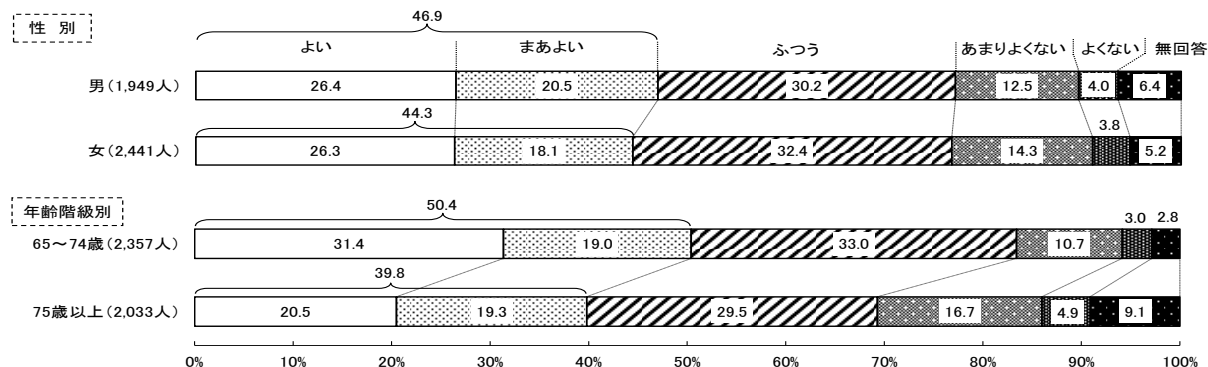
#### (1) 健康意識一性・年齢階級別

「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、女性(44.3%)よりも男性(46.9%)の方が高くなっている

健康意識を性別で見ると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、男性46.9%に対して、女性44.3%で、男性の方が高くなっている。

年齢階級別にみると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、前期高齢者(65~74歳)は50.4%であるが、後期高齢者(75歳以上)は39.8%で、前期高齢者に比べて10.6ポイント低くなっている。(図3-2)

図3-2 健康意識一性・年齢階級別



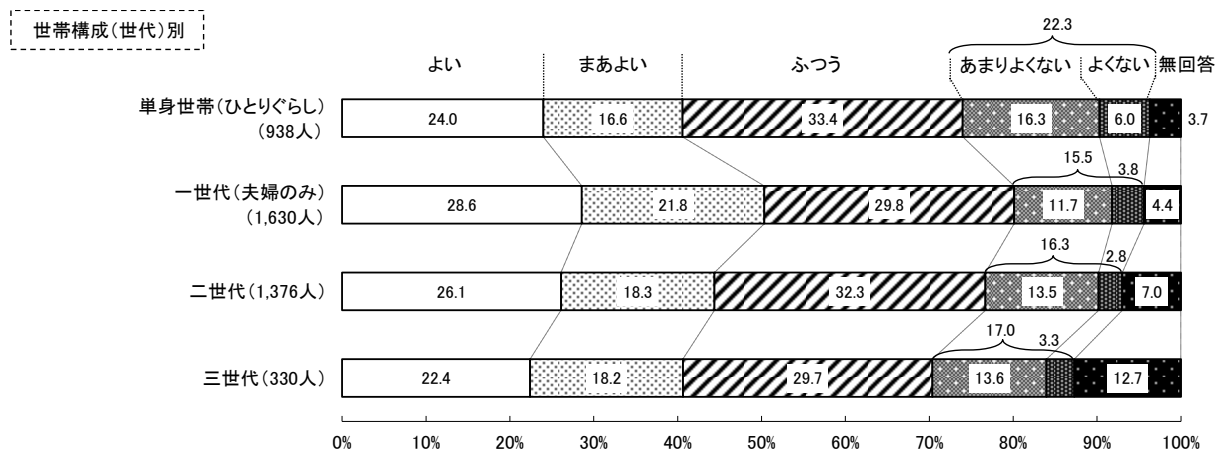
注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。

## (2) 健康意識—世帯構成（世代）、動作能力類型別

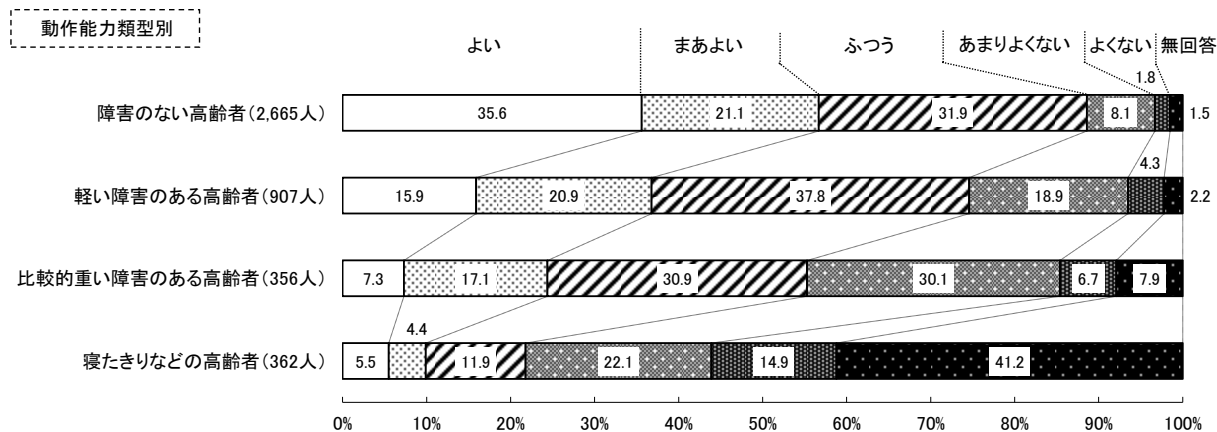
「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、単身世帯（ひとりぐらし）が最も高く、2割

世帯構成（世代）別にみると、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合は、単身世帯（ひとりぐらし）が22.3%で最も高くなっている。（図3-3）

図3-3 健康意識—世帯構成（世代）、動作能力類型別



注) 統計比率を合算した比率は、実数を用いて算出しているため、各比率を単純に合算した比率とは一致しない場合がある。



※動作能力類型は、42 頁を参照。

## 2 日常生活動作（ADL）

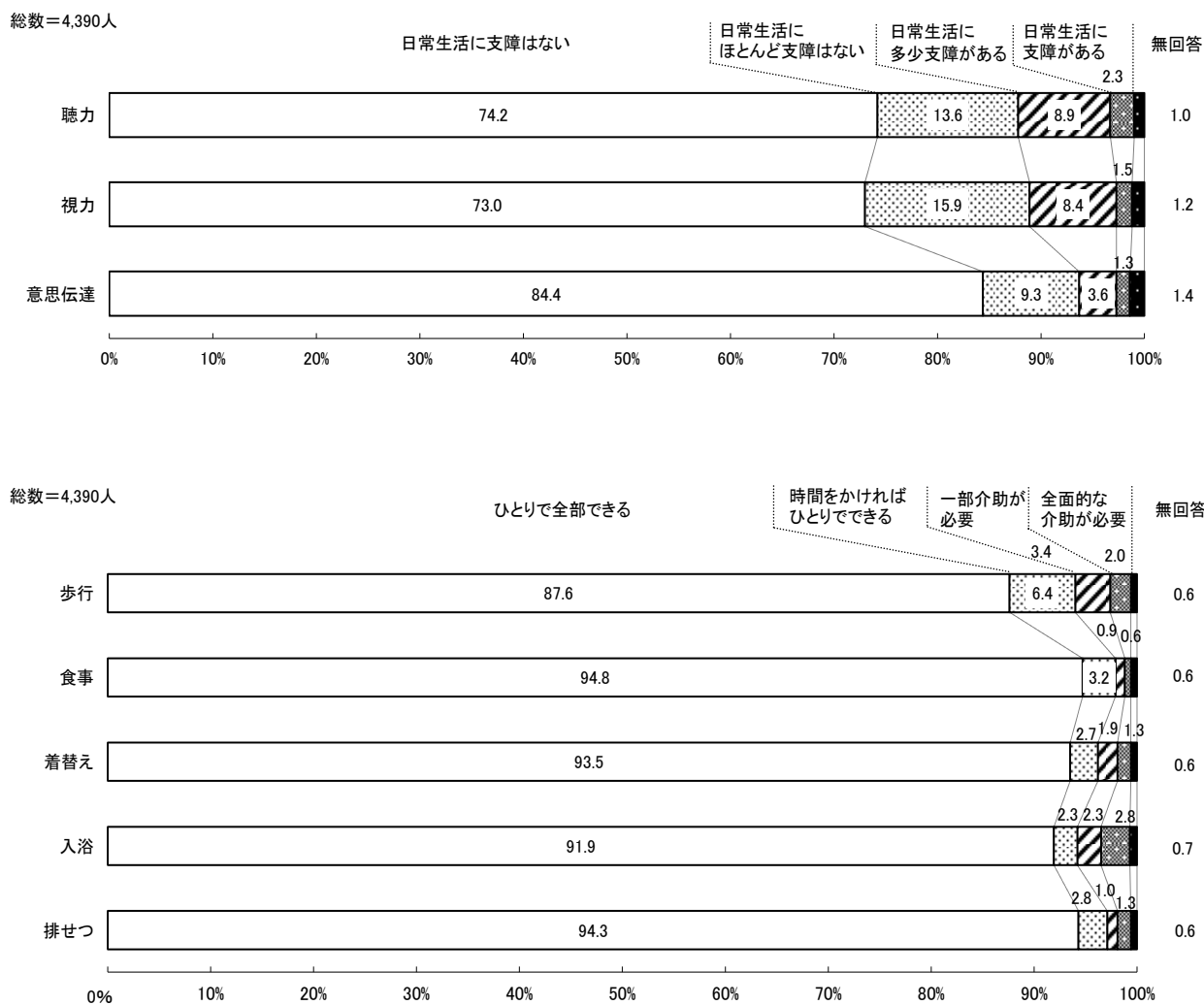
対象者全員に、日常生活動作(ADL)を、「聴力」「視力」「意思伝達」「歩行」「食事」「着替え」「入浴」「排せつ」の基本項目と、「家事一般」「金銭の管理」「薬の管理」「電話の利用」の項目、さらに行動範囲を中心とした「総合」に分けて聞いた。

### (1) 日常生活動作（ADL）（聴力、視力、意思伝達、歩行、食事、着替え、入浴、排せつ）

すべての項目において、7割以上の高齢者が「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」と回答

すべての項目において、7割以上の人が「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」と回答している。(図3-4)

図3-4 日常生活動作（ADL）（聴力、視力、意思伝達、歩行、食事、着替え、入浴、排せつ）



8項目の回答状況を、段階A・Bに分けて表示したのが表3-1である。

表3-1 日常生活動作(ADL)

注) A・B欄は「動作能力類型」(P42参照)を作成するための分類である。

(単位:%)

	A		B	
聴力 ※1	1 日常生活に支障はない	74.2	4 日常生活に支障がある	2.3
	2 日常生活にほとんど支障はない	13.6		
	3 日常生活に多少支障がある	8.9		
視力 ※2	1 日常生活に支障はない	73.0	3 日常生活に多少支障がある	8.4
	2 日常生活にほとんど支障はない	15.9	4 日常生活に支障がある	1.5
意思 伝達	1 日常生活に支障はない	84.4	3 日常生活に多少支障がある	3.6
	2 日常生活にほとんど支障はない	9.3	4 日常生活に支障がある	1.3
歩行 ※3	1 ひとりで全部できる	87.6	3 一部介助が必要	3.4
	2 時間をかければひとりでできる	6.4	4 全面的な介助が必要	2.0
食事	1 ひとりで全部できる	94.8	3 一部介助が必要	0.9
	2 時間をかければひとりでできる	3.2	4 全面的な介助が必要	0.6
着替え	1 ひとりで全部できる	93.5	3 一部介助が必要	1.9
	2 時間をかければひとりでできる	2.7	4 全面的な介助が必要	1.3
入浴	1 ひとりで全部できる	91.9	3 一部介助が必要	2.3
	2 時間をかければひとりでできる	2.3	4 全面的な介助が必要	2.8
排せつ	1 ひとりで全部できる	94.3	3 一部介助が必要	1.0
	2 時間をかければひとりでできる	2.8	4 全面的な介助が必要	1.3

※1 普段、補聴器を使用している場合は、補聴器を使用した状態で回答している。

※2 普段、眼鏡を使用している場合は、眼鏡を使用した状態で回答している。

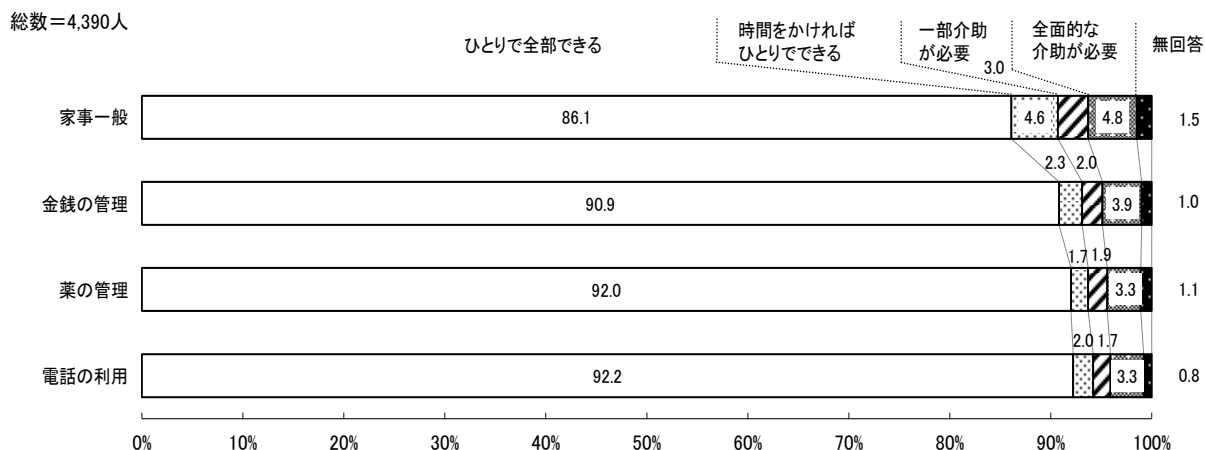
※3 普段、杖や車椅子などを使用している場合は、それらを使用した状態で回答している。

(2) 日常生活動作 (ADL) (家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用)

家事一般以外の項目は、9割以上の高齢者が「ひとりで全部できる」と回答

家事一般以外の項目は、9割以上の人が「ひとりで全部できる」と回答している。(図3-5)

図 3-5 日常生活動作 (ADL) (家事一般、金銭の管理、薬の管理、電話の利用)



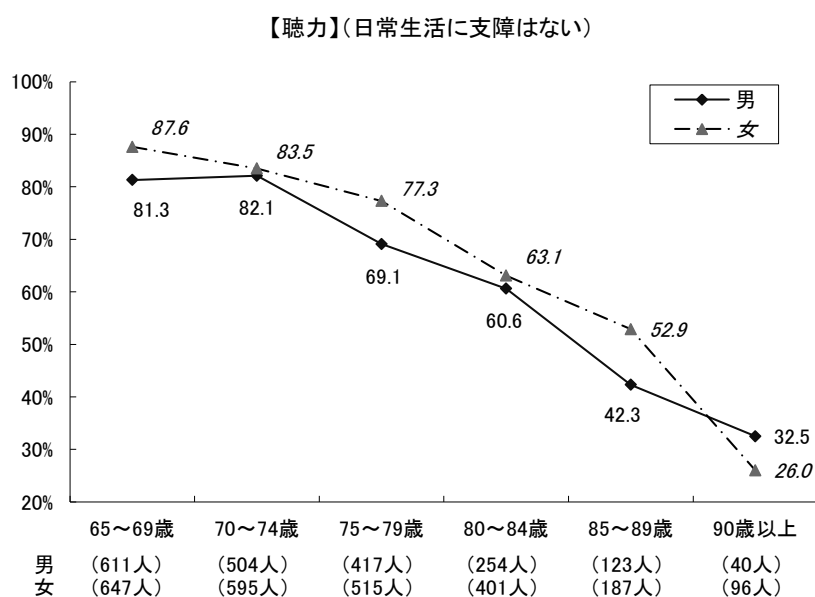
### (3) 日常生活動作 (ADL) - 性・年齢階級別

下記の図 3-6 の各図は、日常生活動作 (ADL) の各項目で「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」と回答した人の割合を年齢階級別に示したものである。

年齢階級が高くなるとともに、「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」の割合は、概ね低くなっている。

性別でみると、「65～69 歳」では男女に差異はあまりみられないが、「85～89 歳」、「90 歳以上」では、概ね女性の方が男性より、低い割合になっている。(図 3-6)

図 3-6 ADL に問題のない高齢者の割合 - 性・年齢階級別

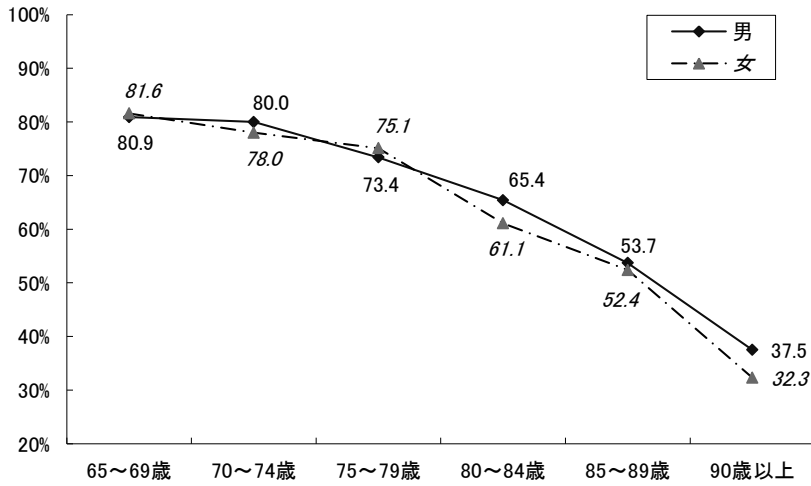


注1) ( ) 内の数値は性・年齢階級別の総数である。他の項目は省略してあるが、同じ数値である。

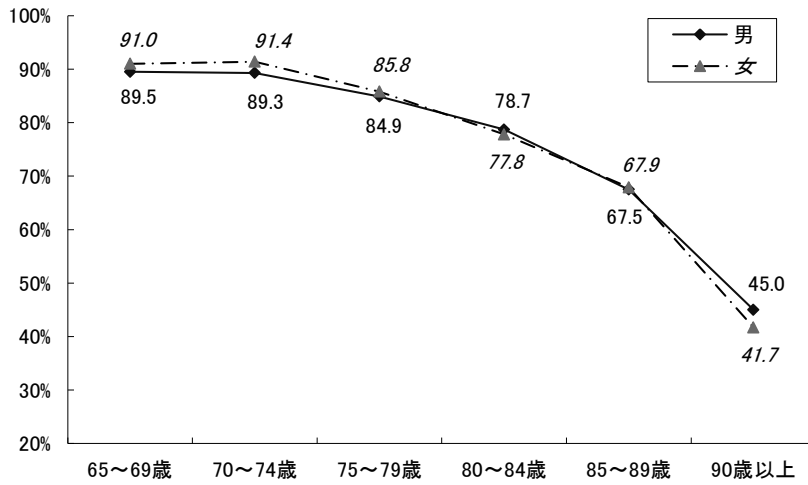
2) 折れ線グラフの数値は、日常生活動作 (ADL) の各項目で「日常生活に支障はない」又は「ひとりで全部できる」と回答した高齢者の割合である。他の項目も同じ。

3) 調査は、在宅の高齢者のみが対象のため、回答者の傾向として比較的元気な方が多いことが予想される。

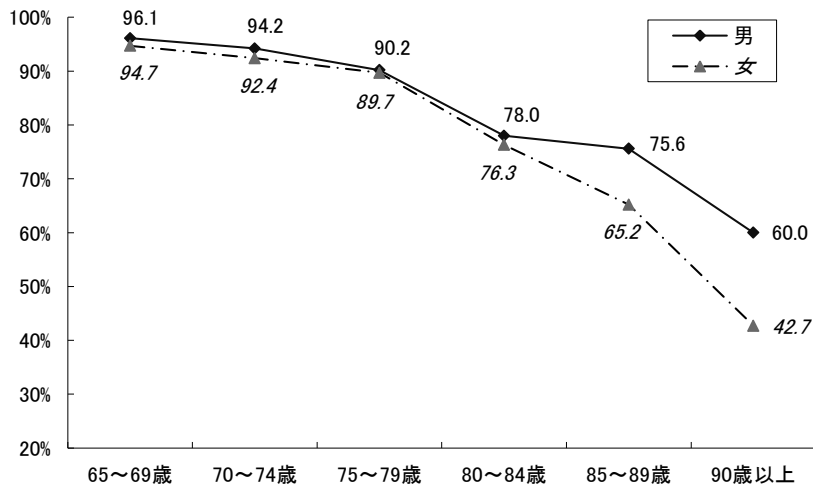
【視力】(日常生活に支障はない)



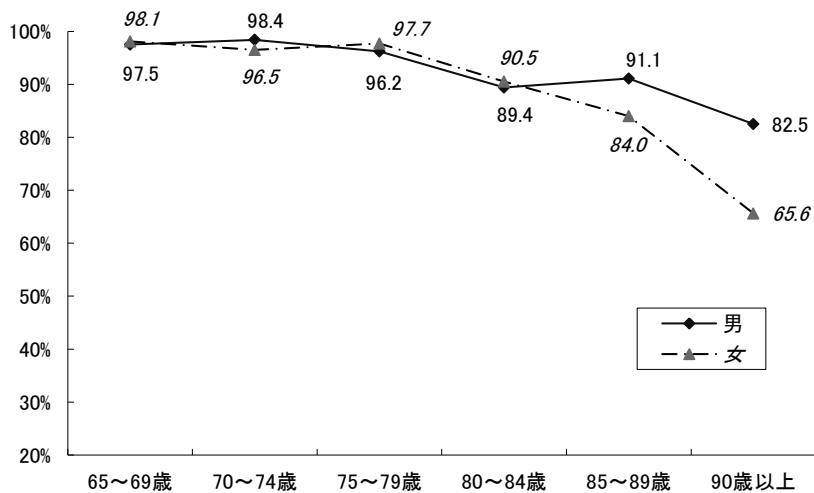
【意思伝達】(日常生活に支障はない)



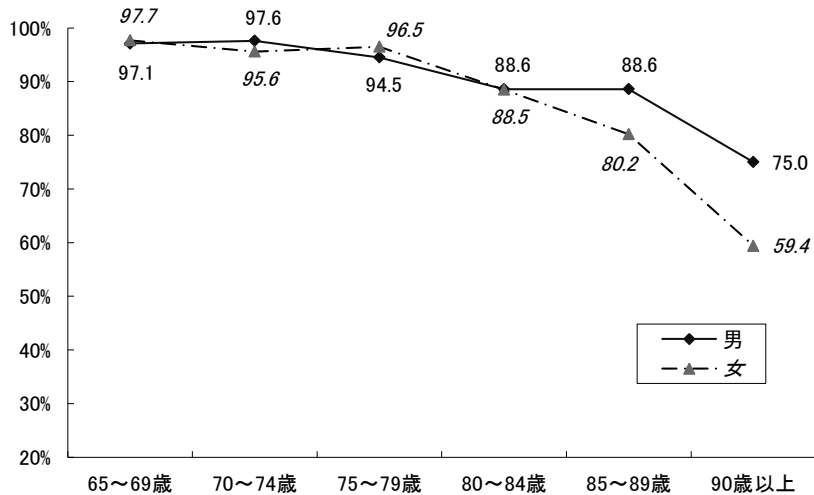
【歩行】(ひとりで全部できる)



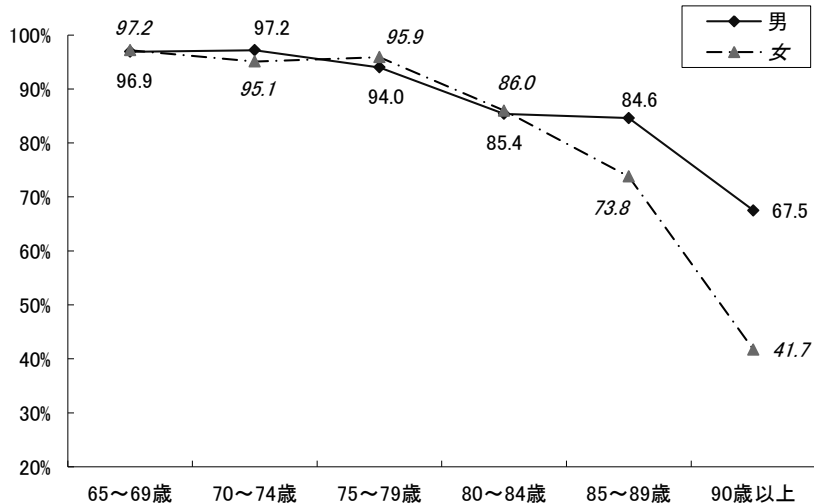
【食事】(ひとりで全部できる)



【着替え】(ひとりで全部できる)

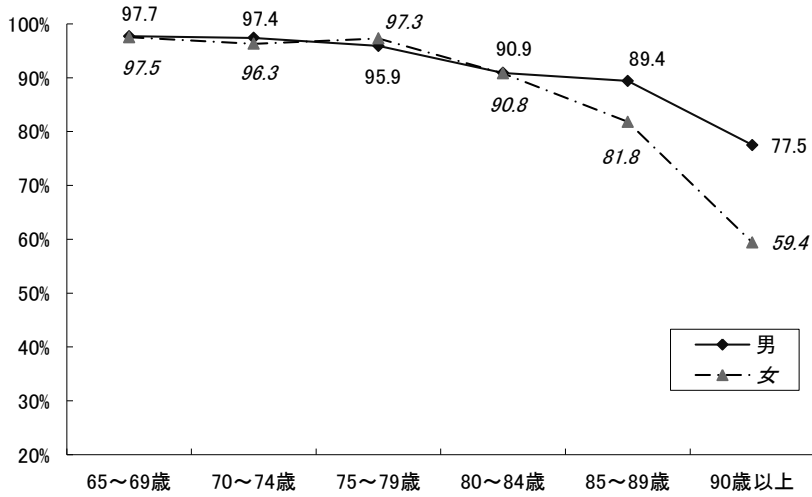


【入浴】(ひとりで全部できる)

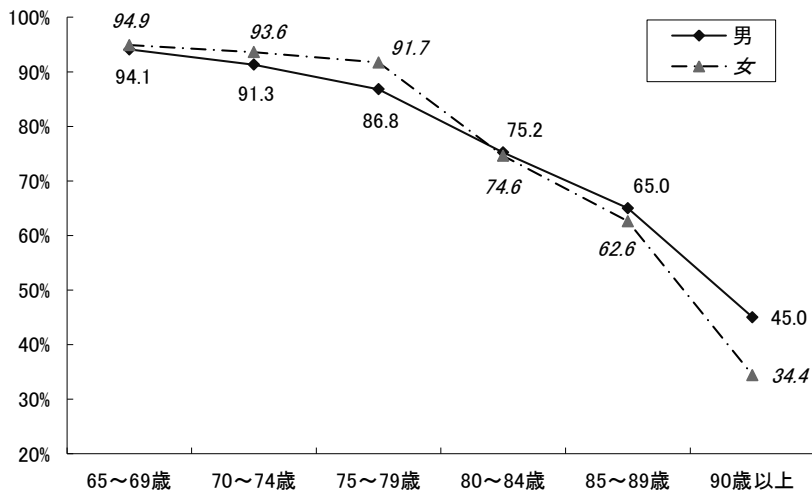




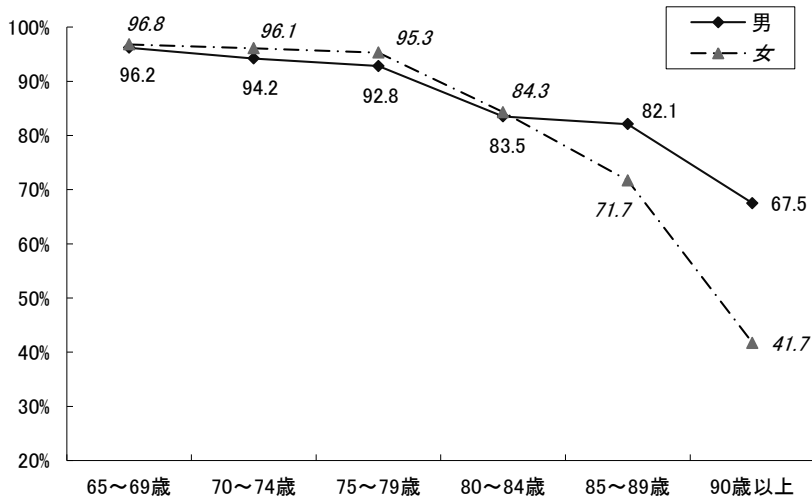
【排せつ】(ひとりで全部できる)



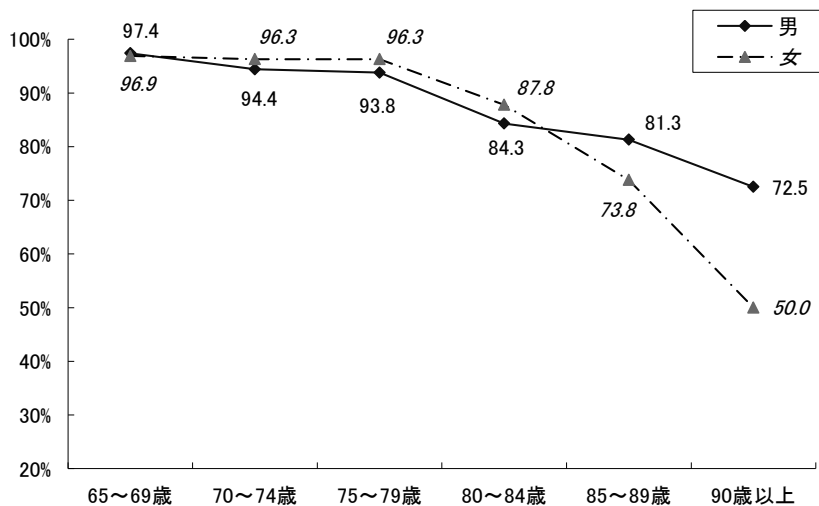
【家事一般】(ひとりで全部できる)



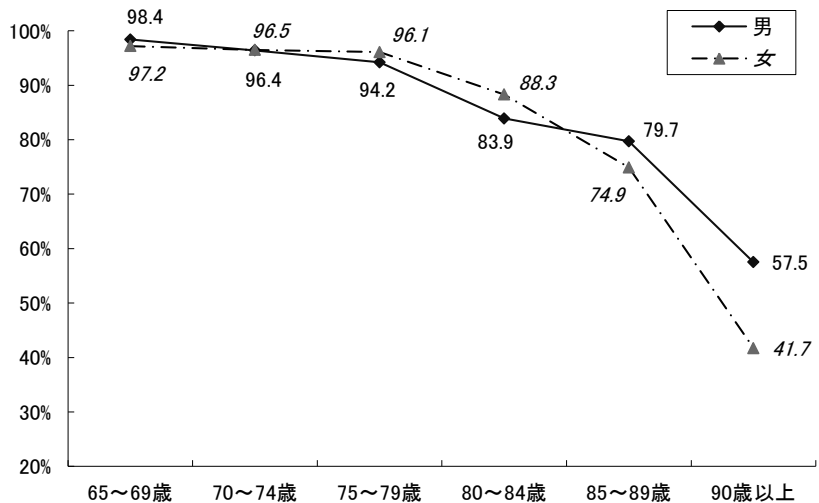
【金銭の管理】(ひとりで全部できる)



【薬の管理】(ひとりで全部できる)



【電話の利用】(ひとりで全部できる)



#### (4) 日常生活動作 (ADL) (総合)

日常生活動作 (ADL) を総合的にみると、生活自立の高齢者の割合が9割

対象者全員に、日常生活動作 (ADL) を総合的にみるため、下記の表 3-2 の段階に分けて聞いたところ、「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」の割合は90.8%で、自立した高齢者の割合は9割となっている。(図 3-7)

図 3-7 日常生活動作 (ADL) (総合)

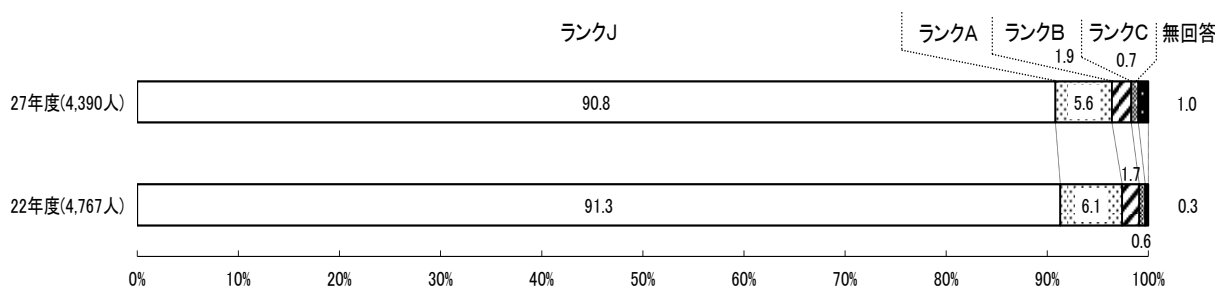


表 3-2 日常生活動作 (総合)

ラ ン ク J	生 活 自 立	<p>①日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる</p> <p>1 バス・電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる</p> <p>2 隣近所への買い物や老人会などへの参加など、町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる</p>
ラ ン ク A	準 寝 た き り	<p>②食事、着替え、排せつはだいたい自分でできるが、外出するには介助が必要である</p> <p>3 介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する</p> <p>4 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている</p>
ラ ン ク B	寝 た き り	<p>③食事、着替え、排せつのいずれかにおいて部分的に介助を必要とし、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる</p> <p>5 自分で車いすなどに座り、食事、排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる</p> <p>6 介助により車いすなどに座り、食事、排せつは介助が必要である</p>
ラ ン ク C	り	<p>④1日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排せつのいずれにおいても全面的な介助が必要である</p> <p>7 自力で寝返りをうつことができる</p> <p>8 自力で寝返りをうつことができない</p>

注) ランクの区分は「障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度) 判定基準」(厚生労働省) による。

ア 日常生活動作（ADL）（総合）一性・年齢階級別

「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」割合は、85歳以上では男性77.9%、女性58.0%

日常生活動作（ADL）（総合）を年齢階級別にみると、「日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる」割合は、男女ともに年齢階級が上がるにつれて概ね低くなっている。

性別でみると、85歳以上では男性77.9%、女性58.0%と、女性が男性よりも19.9ポイント低くなっている。

また、「バス・電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる」割合は、85歳以上の男性で58.3%、女性は37.1%で、男性が女性よりも21.2ポイント高くなっている。（表3-3）

表3-3 日常生活動作（ADL）（総合）一性・年齢階級別

	総数	日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる	バス・電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる	隣近所への買い物や老人会などへの参加など、町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる	無回答	が食事、着替え、排せつはだいたい自分でできる	介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する	外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりする生活をしている	無回答	主として食事、着替え、排せつのおいずれかにおいて部分介助を必要とし、日中もベッドで生活できる	自分で車いすなどに座り、食事・排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる	自分で車いすなどに座り、食事・排せつは介助が必要である	無回答	あせつ1日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排せつのおいずれにおいても全面的な介助が必要である	自力で寝返りをうつことができる	自力で寝返りをうつことができない	無回答	無回答	
総数	100.0 (4,390)	90.8	81.3	8.1	1.4	5.6	3.2	2.4	0.0	1.9	1.3	0.6	0.0	0.7	0.2	0.5	-	1.0	
性・年齢階級別	男	100.0 (1,949)	92.3	84.9	5.8	1.5	4.6	2.8	1.8	-	1.6	1.0	0.5	0.1	0.7	0.3	0.4	-	0.9
	65～69歳	100.0 (611)	95.6	91.5	2.1	2.0	2.0	1.1	0.8	-	0.3	0.2	0.2	-	0.5	0.2	0.3	-	1.6
	70～74歳	100.0 (504)	96.2	91.1	4.4	0.8	2.8	2.0	0.8	-	0.4	0.4	-	-	0.4	0.2	0.2	-	0.2
	75～79歳	100.0 (417)	94.5	86.6	6.2	1.7	3.1	1.7	1.4	-	1.4	1.0	0.5	-	0.5	-	0.5	-	0.5
	80～84歳	100.0 (254)	81.9	71.3	9.4	1.2	12.2	7.5	4.7	-	4.3	2.4	1.6	0.4	0.4	0.4	-	-	1.2
	85歳以上	100.0 (163)	77.9	58.3	17.8	1.8	12.3	6.7	5.5	-	6.1	4.3	1.8	-	3.1	1.2	1.8	-	0.6
	女	100.0 (2,441)	89.6	78.5	9.8	1.3	6.4	3.6	2.8	0.0	2.2	1.4	0.7	0.0	0.7	0.2	0.5	-	1.1
	65～69歳	100.0 (647)	96.6	91.8	3.1	1.7	1.9	1.4	0.5	-	0.3	0.3	-	-	0.2	-	0.2	-	1.1
	70～74歳	100.0 (595)	95.3	87.9	6.1	1.3	3.2	2.0	1.2	-	0.5	0.2	0.3	-	0.3	-	0.3	-	0.7
	75～79歳	100.0 (515)	95.0	86.2	8.0	0.8	3.5	1.6	1.9	-	0.8	0.8	-	-	0.2	0.2	-	-	0.6
80～84歳	100.0 (401)	85.3	62.3	21.4	1.5	10.5	6.0	4.5	-	2.0	1.5	0.5	-	0.2	-	0.2	-	2.0	
85歳以上	100.0 (283)	58.0	37.1	20.1	0.7	23.3	12.4	10.6	0.4	12.7	7.8	4.6	0.4	4.6	1.4	3.2	-	1.4	

(5) 現在の状態になった主な原因〔複数回答〕一性・年齢階級別、22年度調査との比較

現在の状態になった主な原因は、男性は「脳血管疾患」、女性は「高齢による衰弱」がそれぞれ3割

「日常生活動作（総合）」で、ランク A（準寝たきり）、ランク B・C（寝たきり）に該当した人(362人)に、現在の状態となった主な原因を聞いたところ、「高齢による衰弱」の割合が最も高く 25.1%、次いで「脳血管疾患」、「認知症」がともに 22.1%、「骨折・転倒」が 20.7%となっている。

性別でみると、男性は、「脳血管疾患」の割合が最も高く 31.3%、次いで「高齢による衰弱」17.2%、「認知症」、「糖尿病」がともに 16.4%となっている。女性は、「高齢による衰弱」の割合が最も高く 29.8%、次いで「認知症」25.4%、「骨折・転倒」24.6%となっている。

年齢階級別にみると、79歳以下の年齢階級では、どの階級においても「脳血管疾患」の割合が最も高くなっている(25.0%~28.6%)。80~84歳では、「脳血管疾患」及び「認知症」の割合が最も高く 26.6%、85歳以上では、「高齢による衰弱」の割合が最も高く 45.3%となっている。

22年度調査と比較すると、「認知症」の割合は 3.1ポイント、「呼吸器疾患」の割合は 2.9ポイントそれぞれ増加している。(表 3-4)

表 3-4 現在の状態になった主な原因〔複数回答〕一性・年齢階級別、22年度調査との比較

	総数	脳血管疾患 (脳梗塞、脳卒中など)	骨折・転倒	認知症	関節疾患 (リウマチなど)	パーキンソン病	心臓病	脊髄損傷	糖尿病	呼吸器疾患 (肺炎、肺気腫など)	視覚・聴覚障害	悪性新生物(がん)	高齢による衰弱	その他	不明	無回答	
総数	100.0 (362)	<u>22.1</u>	<u>20.7</u>	<u>22.1</u>	5.0	4.1	9.1	5.0	11.0	<u>6.9</u>	7.7	6.1	<u>25.1</u>	13.3	2.2	0.8	
性別	男	100.0 (134)	<u>31.3</u>	14.2	<u>16.4</u>	3.0	6.0	11.9	3.7	<u>16.4</u>	9.7	10.4	11.9	<u>17.2</u>	13.4	4.5	0.7
	女	100.0 (228)	16.7	<u>24.6</u>	<u>25.4</u>	6.1	3.1	7.5	5.7	7.9	5.3	6.1	2.6	<u>29.8</u>	13.2	0.9	0.9
年齢階級別	65~69歳	100.0 (32)	<u>25.0</u>	9.4	15.6	-	9.4	6.3	3.1	21.9	6.3	3.1	6.3	3.1	18.8	9.4	-
	70~74歳	100.0 (42)	<u>28.6</u>	16.7	9.5	4.8	9.5	16.7	2.4	14.3	11.9	7.1	7.1	7.1	14.3	-	-
	75~79歳	100.0 (44)	<u>25.0</u>	11.4	20.5	4.5	9.1	2.3	11.4	11.4	6.8	4.5	2.3	6.8	9.1	2.3	2.3
	80~84歳	100.0 (94)	<u>26.6</u>	21.3	<u>26.6</u>	10.6	3.2	7.4	9.6	14.9	6.4	12.8	10.6	17.0	14.9	2.1	-
	85歳以上	100.0 (150)	16.0	26.7	24.7	2.7	0.7	10.7	1.3	5.3	6.0	6.7	4.0	<u>45.3</u>	12.0	1.3	1.3
22年度	100.0 (401)	20.7	21.4	<u>19.0</u>	7.7	3.0	12.0	5.5	10.7	<u>4.0</u>	8.0	5.5	26.9	14.0	3.2	1.0	

### 3 動作能力類型

調査対象者の動作能力について、下記の表 3-5 のとおり類型分けを行った。

動作能力類型に分けると、障害のない高齢者は 6 割、寝たきりなど的高齢者は約 1 割

「障害のない高齢者」の割合が最も高く 60.7%、次いで「軽い障害のある高齢者」が 20.7%、「比較的重い障害のある高齢者」が 8.1%、「寝たきりなど的高齢者」が 8.2%となっている。(表 3-6)

表 3-5 動作能力類型

生活自立	寝たきりなど的高齢者	寝たきり高齢者	「日常生活動作（総合）」(P39、表 3-2) のランク B 又は C
		寝たきりに近い高齢者	「日常生活動作（総合）」(P39、表 3-2) のランク A
	比較的重い障害のある高齢者		「日常生活動作（総合）」(P39、表 3-2) のランク J かつ 「日常生活動作」(P32、表 3-1) の B 欄に 1 つでも該当のある者
	軽い障害のある高齢者		「日常生活動作（総合）」(P39、表 3-2) のランク J かつ「日常生活動作」(P32、表 3-1) で B 欄に該当がなく A 欄に 1 つでも 1 以外に該当のある者
	障害のない高齢者		「日常生活動作（総合）」(P39、表 3-2) のランク J かつ「日常生活動作」(P32、表 3-1) ですべてが 1 に該当する者

表 3-6 動作能力類型

	総数	寝たきりなど的高齢者	寝たきり高齢者	寝たきりに近い高齢者	比較的重い障害のある高齢者	軽い障害のある高齢者	障害のない高齢者	無回答
総数	100.0 (4,390)	8.2	2.6	5.6	8.1	20.7	60.7	2.3
22年度	100.0 (4,767)	8.4	2.3	6.1	8.7	21.9	60.2	0.7
【参考】								
17年度	100.0 (4,583)	8.3	1.9	6.4	2.0	17.7	72.0	-
12年度	100.0 (5,086)	6.2	2.2	4.0	5.5	13.9	74.4	-
7年度	100.0 (8,686)	3.5	1.7	1.9	3.4	19.0	74.1	-
2年度	100.0 (8,715)	3.6	1.4	2.2	2.7	18.0	75.7	-
昭和60年度	100.0 (8,992)	3.6	1.5	2.1	2.1	22.1	72.2	-

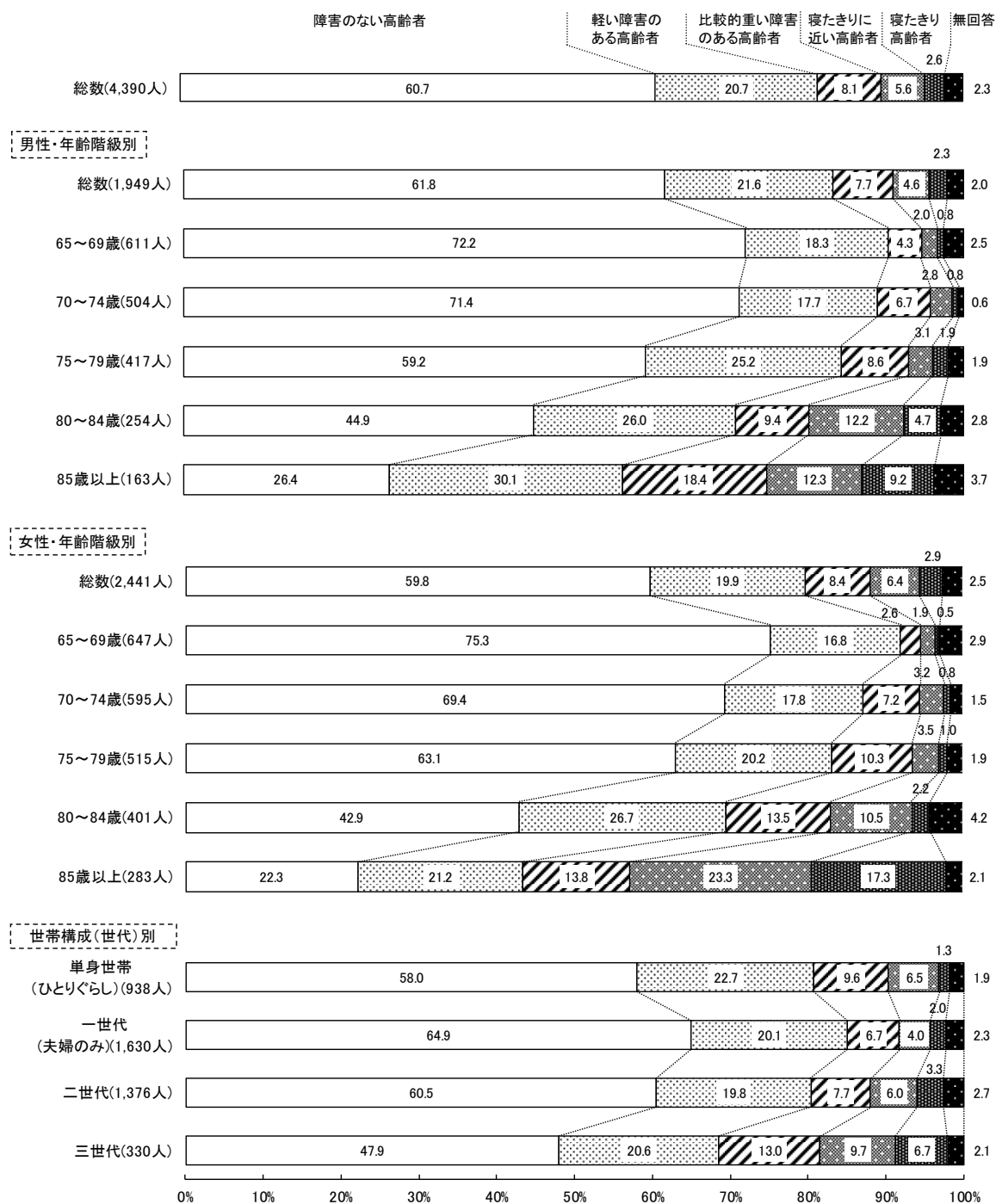
注) 17 年度調査までとは、「日常生活動作 (ADL)」(P32) の選択肢の表現が一部異なっており、厳密に比較を行うことはできないため、参考値である。

(1) 動作能力類型一性・年齢階級、世帯構成(世代)別

「障害のない高齢者」の割合は、65～74歳では男女ともに7割で、年齢階級が上がるとともに減少

動作能力類型を性・年齢階級別にみると、「障害のない高齢者」の割合は、65～74歳では男女ともに7割であるが、年齢階級が上がるとともに減少し、85歳以上では男性26.4%、女性22.3%まで減少している。(図3-8)

図3-8 動作能力類型一性・年齢階級、世帯構成(世代)別



## 4 傷病等の状況

### (1) 現在かかっている傷病〔複数回答〕

現在、何らかの傷病にかかっている人は約 8 割

対象者全員に、現在、何らかの傷病にかかっているか聞いたところ、「現在傷病にかかっている」人の割合は 77.7%で、このうち「高血圧症」の割合が最も高く 41.8%、次いで「眼の病気」15.4%、「糖尿病」14.7%と続いている。また、「現在傷病にかかっていない」人は 20.3%で、2割となっている。(図 3-9、図 3-10)

図 3-9 現在かかっている傷病の有無

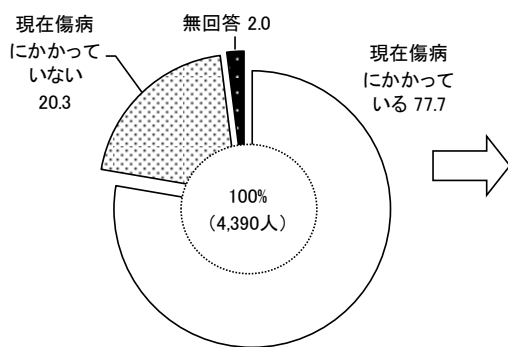


図 3-10 現在かかっている傷病名〔複数回答〕

(上位 5 つ)

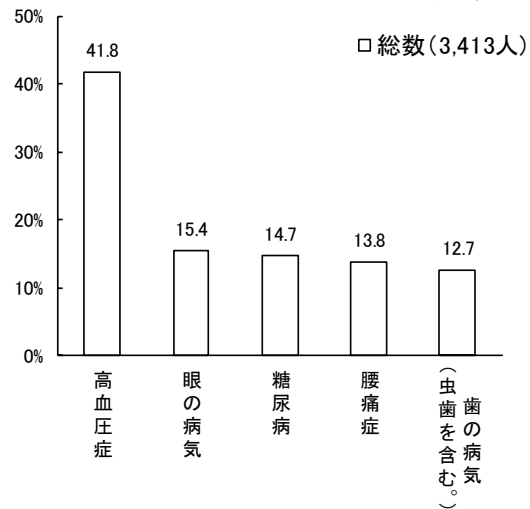


表 3-7 現在かかっている傷病〔複数回答〕－性・年齢階級、動作能力類型別

	総数	内分泌・代謝障害	糖尿病	肥満症	脂質異常症(高コレステロール血症)	甲状腺の病気	精神・神経	うつ病やその他の病気の病気	認知症	パーキンソン病	その他神経の病気(神経痛・麻痺等)	眼の病気	耳の病気	循環器系	高血圧症	脳卒中(脳出血、脳梗塞等)	狭心症・心筋梗塞	その他循環器系の病気	呼吸器系	急性鼻咽頭炎(かぜ)	アレルギー性鼻炎	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	喘息	花粉症	その他呼吸器系の病気	
総数	1000 (4,390)	21.4	11.4	1.9	8.5	1.9	6.3	1.8	2.6	0.7	1.5	12.0	3.8	42.0	32.5	3.8	5.4	4.8	11.8	0.6	3.1	0.4	2.1	5.5	2.1	
性別	男	1000 (1,949)	21.6	14.9	2.0	5.8	0.9	4.7	1.3	1.8	0.8	9.6	3.9	46.3	33.6	5.0	7.9	5.6	11.6	0.3	2.0	0.7	2.1	5.0	3.0	
	女	1000 (2,441)	21.3	8.6	1.8	10.5	2.7	7.5	2.2	3.2	0.7	13.8	3.6	38.5	31.6	2.8	3.4	4.1	11.9	0.8	4.0	0.2	2.2	5.9	1.4	
年齢階級別	65～69歳	1000 (1,258)	21.2	9.9	2.5	10.3	1.5	3.7	1.9	0.6	1.2	8.7	2.0	34.8	29.2	2.0	3.3	3.0	13.7	0.6	4.1	0.3	2.1	8.1	1.5	
	70～74歳	1000 (1,099)	24.2	13.6	1.4	9.5	2.3	4.3	2.1	0.9	0.5	11.3	2.9	39.4	31.1	3.5	4.4	4.8	11.8	0.7	2.8	0.7	1.5	6.1	1.8	
	75～79歳	1000 (932)	22.5	11.8	1.6	8.5	2.4	5.7	1.6	1.6	0.9	1.8	13.9	4.1	45.6	34.9	4.1	6.4	5.4	11.3	0.4	3.5	0.1	2.7	4.8	1.9
	80～84歳	1000 (655)	20.0	11.0	2.1	6.9	1.8	9.5	1.5	5.0	1.4	2.3	16.0	6.9	48.5	35.9	6.0	6.9	5.2	11.6	0.9	2.3	0.5	2.9	3.2	3.5
	85歳以上	1000 (446)	14.8	10.3	1.8	3.1	1.6	14.8	1.8	11.0	0.9	2.0	12.8	5.6	51.3	35.0	5.6	9.6	8.1	7.6	0.2	1.3	0.4	1.6	1.6	3.1
動作能力類型別	寝たきり高齢者	1000 (115)	17.4	13.9	-	5.2	-	43.5	3.5	34.8	5.2	4.3	14.8	7.0	56.5	30.4	19.1	8.7	12.2	8.7	-	0.9	0.9	1.7	0.9	5.2
	寝たきりに近い高齢者	1000 (247)	24.7	19.8	2.0	3.2	1.2	30.8	5.7	20.6	4.0	2.8	17.0	5.3	49.0	29.1	16.2	10.1	4.5	10.5	-	0.8	2.0	2.8	3.2	4.5
	比較的重い障害のある高齢者	1000 (356)	28.4	17.1	2.5	7.6	3.9	8.1	2.5	1.7	1.1	3.7	35.1	12.6	50.0	36.2	5.1	7.6	7.6	18.8	1.4	5.6	0.6	2.8	8.7	4.2
	軽い障害のある高齢者	1000 (907)	24.5	12.3	3.2	10.9	2.6	5.2	2.6	0.6	0.4	1.7	13.8	7.2	44.7	35.3	3.0	6.5	6.0	13.7	1.0	4.3	0.3	1.9	6.6	2.2
	障害のない高齢者	1000 (2,665)	19.2	9.3	1.4	8.4	1.6	2.3	1.0	0.2	0.2	0.9	7.6	1.1	39.2	31.9	2.0	4.1	3.8	10.5	0.5	2.6	0.3	2.1	5.1	1.5



ア 現在かかっている傷病〔複数回答〕－性・年齢階級、動作能力類型別

男女とも、「高血圧症」の割合が最も高く、3割

現在かかっている傷病を性別で見ると、男性は、「高血圧症」の割合が最も高く 33.6%、次いで「糖尿病」14.9%、「眼の病気」9.6%、「歯の病気」9.5%となっている。女性も「高血圧症」の割合が最も高く 31.6%、次いで「眼の病気」13.8%、「腰痛症」12.0%となっている。

年齢階級別にみると、いずれの階級においても「高血圧症」の割合が最も高くなっている（29.2%～35.9%）。

動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者は、「認知症」の割合が最も高く 34.8%となっている。寝たきりに近い高齢者、比較的重い障害のある高齢者、軽い障害のある高齢者、障害のない高齢者は、いずれも「高血圧症」の割合が最も高くなっている（29.1%～36.2%）。（表 3-7）

消化器系	胃・十二指腸の病気	肝臓・胆のうの病気	その他消化器系の病気	歯の病気 (虫歯を含む。)	皮膚	アトピー性皮膚炎	その他皮膚の病気	筋骨格系	痛風	関節リウマチ	関節症	肩こり症	腰痛症	骨粗しょう症	泌尿器系	腎臓病	前立腺肥大症 (更年期障害等)	閉経期又は閉経後障害	損傷	骨折	骨折以外のけが・やけど	貧血・血液の病気	悪性新生物(がん)	その他	特になし	無回答
8.0	3.8	1.9	2.7	9.9	3.5	0.8	2.8	22.5	1.5	1.5	6.0	4.5	10.7	5.6	6.2	2.2	4.1	0.1	3.1	2.2	1.0	1.3	3.5	2.8	20.3	2.0
9.1	4.2	2.4	3.0	9.5	3.0	0.5	2.6	16.4	3.0	1.0	3.4	3.0	9.2	0.6	11.4	2.7	9.2	-	1.4	1.1	0.3	1.4	4.7	2.4	20.9	1.5
7.1	3.4	1.4	2.5	10.2	4.0	1.0	3.0	27.3	0.3	1.9	8.1	5.7	12.0	9.7	2.0	1.8	-	0.2	4.4	3.1	1.5	1.2	2.5	3.2	19.8	2.3
6.0	2.9	1.8	1.7	11.0	3.7	0.9	2.9	18.6	1.5	1.0	4.5	6.2	8.6	3.3	4.9	1.7	3.1	0.3	1.4	0.9	0.6	1.2	2.9	2.1	27.3	2.5
8.2	4.4	0.9	3.3	9.4	2.6	0.5	2.1	20.4	1.6	2.0	4.1	3.5	10.3	4.9	5.6	1.5	4.1	-	1.8	1.4	0.5	1.2	3.4	2.6	22.6	2.3
7.9	4.0	2.0	2.4	8.3	4.0	0.9	3.1	25.8	1.8	2.0	7.3	4.7	11.9	6.1	6.8	2.4	4.5	0.1	2.9	1.8	1.1	1.1	3.9	3.4	15.9	1.2
11.0	4.0	3.5	3.8	11.8	3.8	1.1	2.9	26.0	1.4	1.2	8.2	3.1	14.7	8.4	7.5	3.5	4.1	-	5.3	3.7	2.0	1.5	4.4	3.4	12.5	1.8
8.7	4.3	1.6	3.1	8.5	3.8	0.2	3.6	26.5	0.9	0.7	9.0	4.0	9.6	9.0	8.3	2.9	5.8	-	7.8	6.5	1.3	2.2	3.1	3.1	15.5	1.6
10.4	3.5	2.6	4.3	10.4	5.2	0.9	5.2	26.1	2.6	4.3	3.5	2.6	7.8	13.0	13.0	8.7	5.2	-	15.7	14.8	0.9	3.5	7.8	9.6	2.6	0.9
8.9	2.8	3.2	2.8	11.3	2.8	0.4	2.4	27.5	0.8	2.4	8.9	3.6	14.2	10.1	12.1	7.3	4.9	0.4	8.9	7.7	1.6	3.6	4.9	4.5	6.5	0.8
11.5	7.0	2.8	3.1	15.4	6.2	1.1	5.1	34.3	1.7	2.0	11.8	8.7	19.7	8.1	6.5	2.8	3.7	-	4.2	3.9	0.8	1.7	3.9	4.2	5.6	1.1
10.9	4.6	2.5	4.1	12.2	4.5	0.8	3.7	30.1	2.0	1.8	8.0	6.7	14.7	7.8	8.2	2.2	6.0	0.2	3.2	1.2	2.0	1.8	3.1	3.6	13.8	1.1
6.2	3.0	1.3	2.1	8.1	2.7	0.6	2.1	17.3	1.4	1.1	4.3	3.2	7.9	3.6	4.6	1.2	3.4	0.1	1.6	1.1	0.5	0.8	3.1	1.9	27.0	1.9

## (2) 通院・往診（訪問診療）の有無一性・年齢階級、動作能力類型別

何らかの傷病にかかっている人（3,413人）に、通院しているかどうか聞いた。

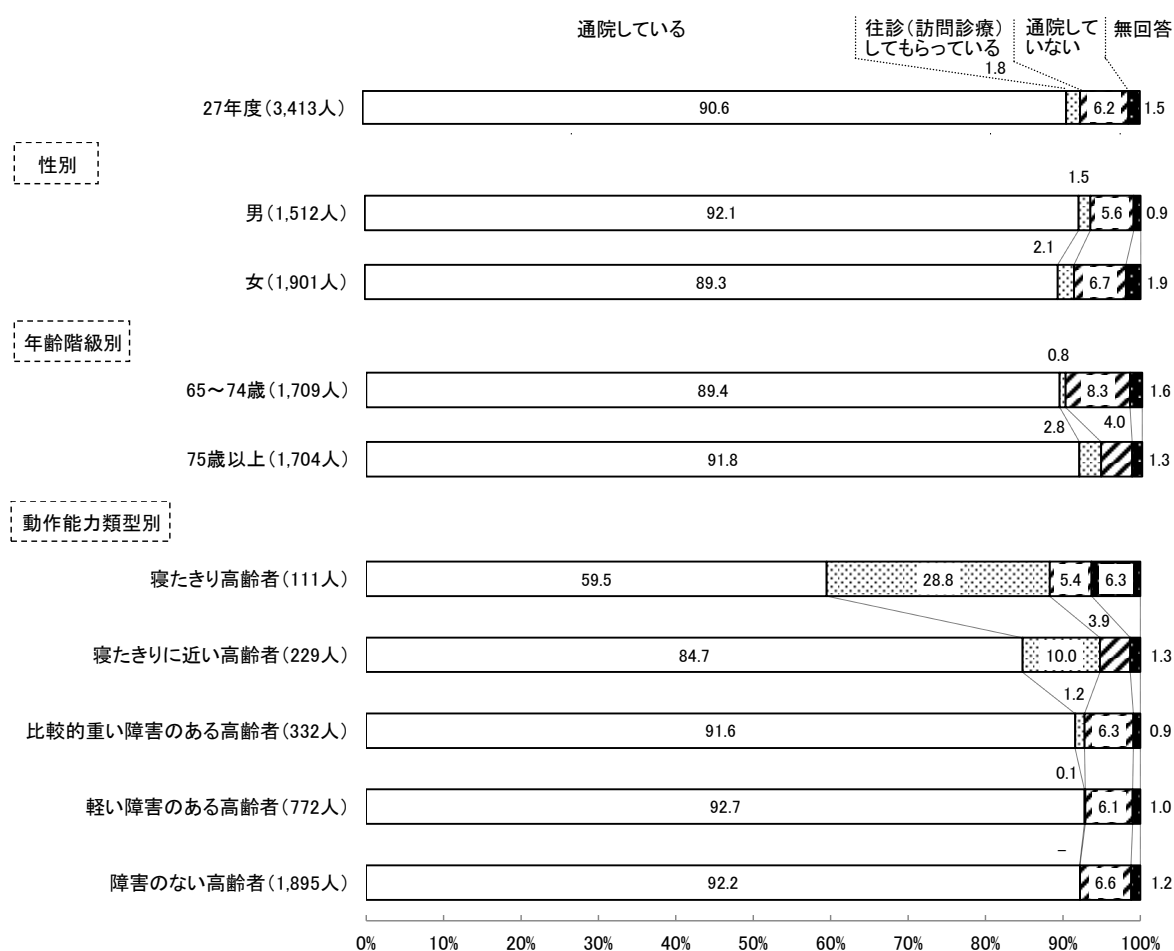
※通院と往診（訪問診療）の両方を利用している場合は、より頻度の多い方を回答。

何らかの傷病にかかっている人のうち、「通院している」割合は9割

「通院している」の割合が最も高く90.6%、「往診（訪問診療）してもらっている」が1.8%、「通院していない」が6.2%となっている。

動作能力類型別にみると、寝たきりの高齢者は、「往診（訪問診療）してもらっている」の割合が高く、28.8%となっている。（図3-11）

図3-11 通院・往診（訪問診療）の有無一性・年齢階級、動作能力類型別



### (3) 通院状況一年齢階級、動作能力類型別

「ひとりで通院している」人の割合が最も高く、83.4%

何らかの傷病にかかって通院している人（3,091人）に、通院状況について聞いたところ、「ひとりで通院している」の割合が最も高く83.4%、次いで「家族の付き添い」12.9%となっている。

年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「家族の付き添い」の割合が高くなり、85歳以上では、40.8%と4割となっている。

動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者と寝たきりに近い高齢者は、「家族の付き添い」の割合が最も高く、それぞれ80.3%、71.6%と7割以上となっている。（表3-8）

表3-8 通院状況一年齢階級、動作能力類型別

		総数	ひとりで通院している	家族の付き添い	友人・知人の付き添い	ヘルパーの付き添い	NPO・市区町村などの移送サービスを利用	その他	無回答
総数		100.0 (3,091)	<u>83.4</u>	<u>12.9</u>	0.2	1.0	0.1	0.5	1.9
年齢階級別	65～69歳	100.0 (771)	91.1	<u>4.2</u>	0.1	0.6	-	0.4	3.6
	70～74歳	100.0 (756)	91.1	<u>6.5</u>	0.1	0.8	-	0.1	1.3
	75～79歳	100.0 (725)	86.1	<u>11.0</u>	0.1	0.6	0.1	0.6	1.5
	80～84歳	100.0 (520)	75.2	<u>20.8</u>	0.6	1.3	0.6	0.6	1.0
	85歳以上	100.0 (319)	53.6	<u>40.8</u>	0.3	2.5	-	1.3	1.6
動作能力類型別	寝たきり高齢者	100.0 (66)	1.5	<u>80.3</u>	1.5	9.1	-	4.5	3.0
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (194)	14.4	<u>71.6</u>	1.5	8.2	1.5	1.5	1.0
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (304)	78.9	17.1	-	1.0	-	1.3	1.6
	軽い障害のある高齢者	100.0 (716)	86.5	10.6	0.3	0.3	0.1	0.1	2.1
	障害のない高齢者	100.0 (1,747)	94.2	3.7	0.1	0.1	-	0.2	1.7

(4) 過去1か月の総通院日数一性・年齢階級、動作能力類型別、22年度調査との比較

「1日以下」の割合が最も高く、59.9%

何らかの傷病にかかって通院している人(3,091人)に、過去1か月に通院した総日数を聞いたところ、「1日以下」の割合が59.9%で最も高く、次いで「2日」の割合が15.6%となっている。

22年度調査と比較すると、「1日以下」の割合が4.0ポイント増加している一方、「2日」の割合は3.5ポイント減少している。

各分類の平均通院日数をみると、性別では女性、年齢階級別では75～79歳、80～84歳、動作能力類型別では寝たきり高齢者、寝たきりに近い高齢者、比較的重い障害のある高齢者、軽い障害のある高齢者がそれぞれ総数に比べ高くなっている。また22年度調査と比較すると、平均通院日数は0.25日減少している。(表3-9)

表3-9 過去1か月の総通院日数一性・年齢階級、動作能力類型別、22年度調査との比較

		総数	1日以下	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上	無回答	平均
総数		100.0 (3,091)	<u>59.9</u>	<u>15.6</u>	5.6	4.9	2.5	3.8	1.8	0.9	0.6	4.4	<u>2.31</u>	
性別	男	100.0 (1,393)	64.5	14.7	5.2	3.8	1.9	2.3	2.2	0.6	0.5	4.2	2.09	
	女	100.0 (1,698)	56.2	16.3	5.8	5.7	2.9	5.1	1.5	1.2	0.8	4.7	<u>2.50</u>	
年齢階級別	65～69歳	100.0 (771)	65.0	12.6	4.5	3.9	2.3	3.0	1.7	0.5	0.5	6.0	2.04	
	70～74歳	100.0 (756)	62.3	14.4	5.4	4.0	2.4	4.4	1.3	1.3	0.4	4.1	2.26	
	75～79歳	100.0 (725)	58.3	15.2	5.5	5.0	2.5	3.9	2.6	1.0	1.0	5.1	<u>2.50</u>	
	80～84歳	100.0 (520)	55.6	16.3	7.3	6.0	3.5	4.2	1.9	1.2	0.8	3.3	<u>2.59</u>	
	85歳以上	100.0 (319)	52.7	25.1	5.6	7.2	1.3	3.8	1.3	0.6	0.6	1.9	2.23	
動作能力類型別	寝たきり高齢者	100.0 (66)	40.9	18.2	7.6	10.6	6.1	9.1	6.1	-	-	1.5	<u>3.25</u>	
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (194)	49.0	20.1	8.2	6.7	4.1	4.1	3.6	0.5	1.5	2.1	<u>2.93</u>	
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (304)	46.4	18.8	7.2	8.6	3.9	4.9	3.0	2.6	0.3	4.3	<u>3.04</u>	
	軽い障害のある高齢者	100.0 (716)	55.9	16.5	6.4	6.0	3.1	5.2	0.8	1.0	1.4	3.8	<u>2.56</u>	
	障害のない高齢者	100.0 (1,747)	66.8	13.7	4.6	3.3	1.5	2.8	1.6	0.6	0.3	4.6	1.94	
22年度		100.0 (3,400)	<u>55.9</u>	<u>19.1</u>	6.2	5.1	2.2	4.7	3.2	1.0	0.5	2.0	<u>2.56</u>	

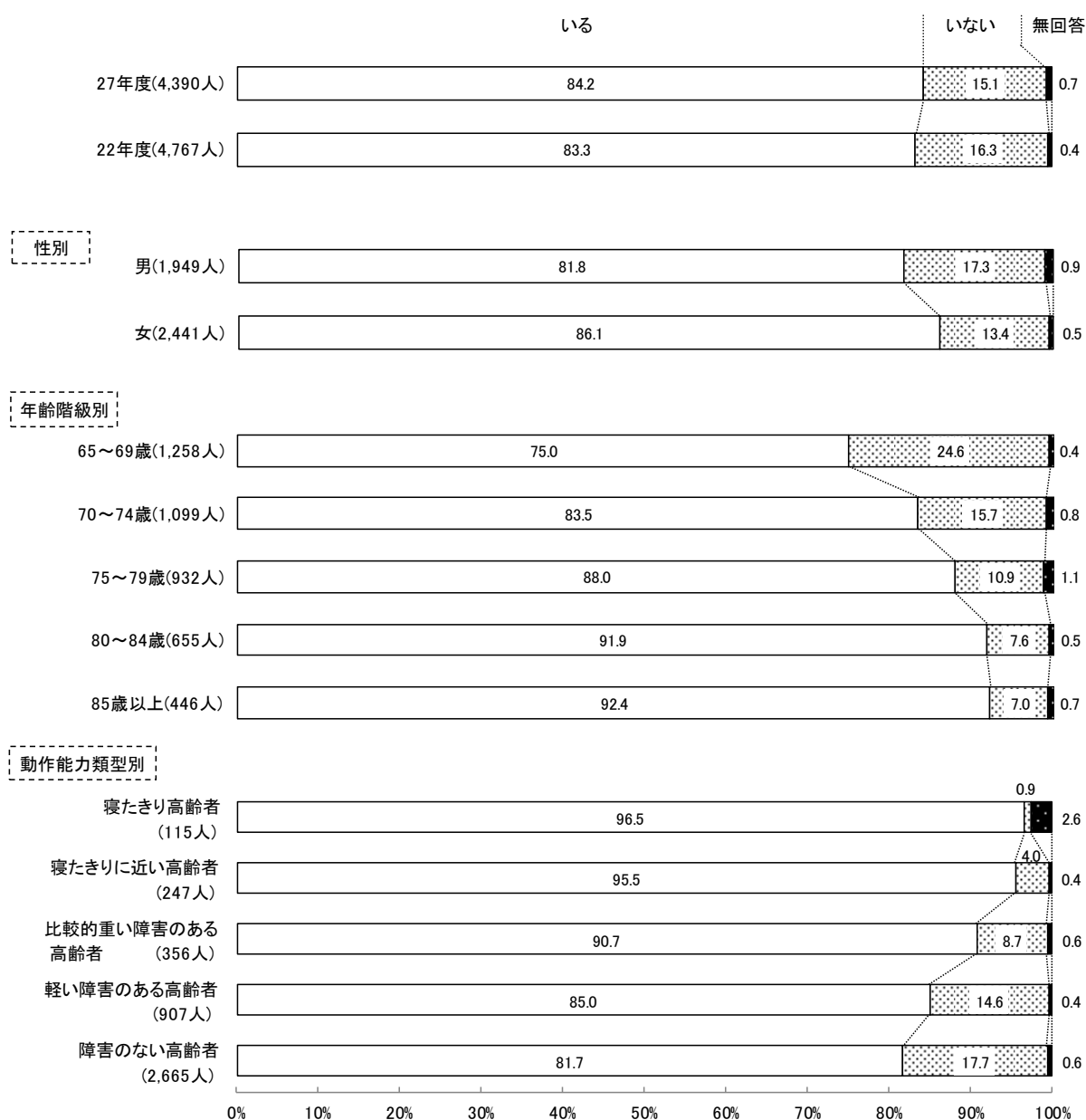
(5) かかりつけ医の有無一性・年齢階級、動作能力類型別

年齢階級が上がるにつれて、かかりつけ医が「いる」人の割合は高くなり、80歳以上では9割超

対象者全員に、かかりつけ医の有無を聞いたところ、「いる」人の割合は84.2%で、「いない」は15.1%であった。

年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて「いる」人の割合は高くなり、80～84歳では91.9%、85歳以上では92.4%で9割を超えている。(図3-12)

図3-12 かかりつけ医の有無一性・年齢階級、動作能力類型別



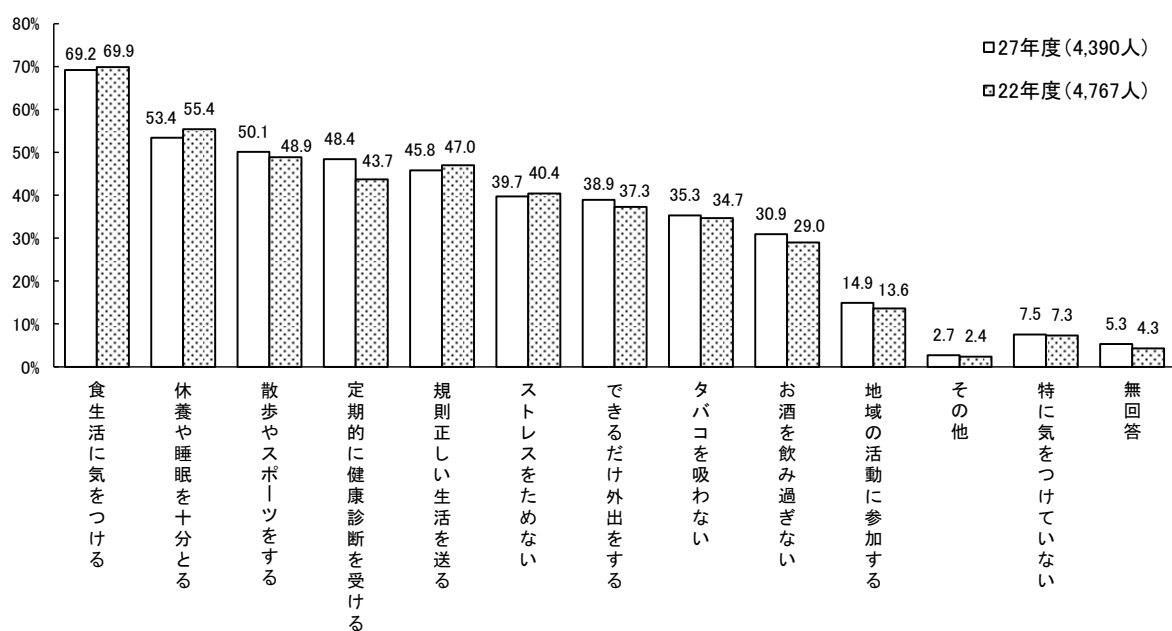
## 5 健康のために気をつけていること

健康のために気をつけていることは、「食生活に気をつける」の割合が最も高く、7割

対象者全員に、健康の維持増進のために気をつけていることを聞いたところ、「食生活に気をつける」の割合が最も高く、69.2%で7割となっている。

22年度調査と比べると、「定期的に健康診断を受ける」が4.7ポイント、「お酒を飲み過ぎない」が1.9ポイント増加している。一方で、「休養や睡眠を十分とる」が2.0ポイント減少している。(図3-13)

図3-13 健康のために気をつけていること〔複数回答〕－22年度調査との比較



(1) 健康のために気をつけていること〔複数回答〕－性・年齢階級別

男女ともに、年齢階級に関わらず「食生活に気をつける」の割合が最も高い

健康のために気をつけていることについて、性別で見ると、男女ともに「食生活に気をつける」の割合が最も高く、それぞれ 65.3%、72.3%となっている。次いで、男性は「散歩やスポーツをする」の割合が高く 52.9%、女性は「休養や睡眠を十分とる」の割合が高く 54.2%となっている。

「お酒を飲みすぎない」の割合は、女性が 23.0%であるのに対し、男性は 40.9%で、17.9 ポイントの差がある。また、「タバコを吸わない」の割合は、女性が 28.0%であるのに対し、男性が 44.4%で、16.4 ポイントの差がある。(表 3-10)

表 3-10 健康のために気をつけていること〔複数回答〕－性・年齢階級別

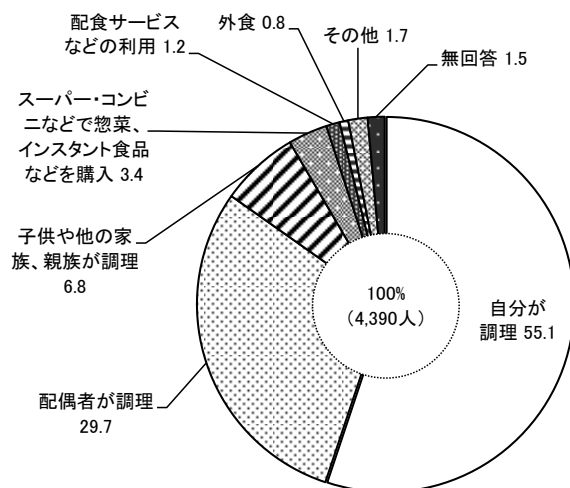
	総数	食生活に気をつける	休養や睡眠を十分とる	ストレスをためない	規則正しい生活を送る	散歩やスポーツをする	できるだけ外出をする	地域の活動に参加する	定期的に健康診断を受ける	お酒を飲み過ぎない	タバコを吸わない	その他	特に気をつけていない	無回答	
総数	100.0 (4,390)	69.2	53.4	39.7	45.8	50.1	38.9	14.9	48.4	30.9	35.3	2.7	7.5	5.3	
性・年齢階級別	男	100.0 (1,949)	<u>65.3</u>	52.4	37.0	44.0	<u>52.9</u>	36.5	13.9	48.2	<u>40.9</u>	<u>44.4</u>	2.1	8.2	5.8
	65～74歳	100.0 (1,115)	<u>65.8</u>	52.7	37.9	42.4	55.5	34.3	12.0	47.7	40.4	41.6	1.7	9.1	3.9
	75～84歳	100.0 (671)	<u>66.6</u>	54.7	36.2	47.5	52.0	40.5	16.7	49.6	42.0	50.1	2.5	6.9	6.4
	85歳以上	100.0 (163)	<u>56.4</u>	40.5	34.4	39.9	38.7	34.4	15.3	45.4	39.9	40.5	3.1	7.4	16.6
	女	100.0 (2,441)	<u>72.3</u>	<u>54.2</u>	41.9	47.2	47.8	40.8	15.6	48.6	<u>23.0</u>	<u>28.0</u>	3.1	7.0	4.9
	65～74歳	100.0 (1,242)	<u>77.9</u>	58.0	45.7	51.1	54.8	43.6	17.1	50.6	25.8	29.9	2.9	6.0	1.3
	75～84歳	100.0 (916)	<u>71.6</u>	52.6	41.6	46.3	45.3	43.3	16.0	51.0	22.2	28.9	3.1	7.6	3.9
	85歳以上	100.0 (283)	<u>49.8</u>	42.4	25.8	33.2	25.8	20.8	7.4	32.2	13.1	16.6	4.2	9.5	23.7

## 6 食事の状況

普段の食事の用意は、「自分が調理」の割合が最も高く、5割超

対象者全員に、普段の食事の状況を聞いたところ、食事の用意は「自分が調理」の割合が最も多く55.1%、次いで「配偶者が調理」が29.7%となっている。(図3-14)

図3-14 食事の状況





(1) 食事の状況－性・年齢階級、配偶者の有無別

男性は「配偶者が調理」の割合が最も高く 64.2%、女性は「自分が調理」が最も高く、82.7%

普段の食事の状況を性別で見ると、男性は「配偶者が調理」の割合が最も高く 64.2%、女性は「自分が調理」の割合が最も高く 82.7%となっている。

年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「子供や他の家族、親族が調理」の割合が高くなり、85歳以上では男性 19.0%、女性 34.3%となっている。

配偶者の有無別にみると、配偶者のいる男性は「配偶者が調理」の割合が 83.4%となっている。一方、配偶者のいる女性は「自分が調理」の割合が 89.4%となっている。(表 3-11)

表 3-11 食事の状況－性・年齢階級、配偶者の有無別

		総数	自分が調理	配偶者が調理	子供や他の家族、親族が調理	配食サービスなどの利用	品などで惣菜、インスタント食品などを購入	スーパードリンクなど	外食	その他	無回答
総数		100.0 (4,390)	55.1	29.7	6.8	1.2	3.4	0.8	1.7	1.5	
性・年齢階級別	男	100.0 (1,949)	20.6	<u>64.2</u>	5.3	1.1	4.5	1.3	0.9	2.0	
	65～74歳	100.0 (1,115)	21.2	65.1	<u>3.5</u>	0.5	5.3	1.9	0.7	1.8	
	75～84歳	100.0 (671)	20.1	66.6	<u>5.1</u>	1.2	3.4	0.7	0.9	1.9	
	85歳以上	100.0 (163)	19.0	47.9	<u>19.0</u>	4.9	3.1	-	2.5	3.7	
	女	100.0 (2,441)	<u>82.7</u>	2.1	7.9	1.2	2.5	0.3	2.3	1.0	
	65～74歳	100.0 (1,242)	91.2	1.8	<u>2.4</u>	0.4	1.7	0.4	1.3	0.8	
	75～84歳	100.0 (916)	82.4	2.6	<u>7.3</u>	1.5	3.2	0.1	1.9	1.0	
	85歳以上	100.0 (283)	45.9	1.8	<u>34.3</u>	3.5	4.2	0.4	7.8	2.1	
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (2,744)	45.6	47.4	2.6	0.8	1.5	0.1	0.4	1.4	
	男	100.0 (1,500)	9.3	<u>83.4</u>	2.7	0.7	1.5	0.3	0.3	1.7	
	女	100.0 (1,244)	<u>89.4</u>	4.1	2.4	1.0	1.5	-	0.6	1.0	
	配偶者なし	100.0 (1,628)	71.0	-	13.9	1.7	6.5	1.7	3.7	1.5	
	未婚	100.0 (295)	68.8	-	7.8	2.0	12.9	2.7	4.4	1.4	
	死別	100.0 (1,032)	70.1	-	18.4	1.7	4.1	1.3	3.2	1.3	
	離別	100.0 (301)	76.4	-	4.7	1.3	8.6	2.0	4.7	2.3	



## 第4章 介護保険制度

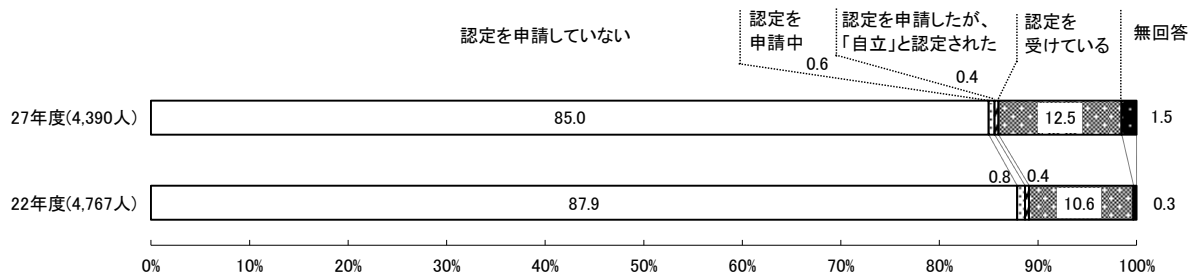
### 1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

#### （1）要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

「認定を受けている」人の割合は、12.5%

対象者全員に、介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）を受けているか聞いたところ、「認定を受けている」人の割合は12.5%、「認定を申請していない」人の割合は85.0%となっている。（図4-1）

図4-1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無



ア 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

一性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

寝たきり高齢者が、「認定を受けている」割合は94%、「申請していない」は3%

介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。）を受けているかを性別でみると、「認定を受けている」割合は、男性9.5%、女性14.8%で、女性の方が5.3ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて、「認定を受けている」割合が高くなっている（4.1%～34.4%、4.8%～51.2%）。

動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者では、「認定を受けている」割合が93.9%、「認定を申請していない」が2.6%となっている。（表4-1）

表4-1 要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無

一性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

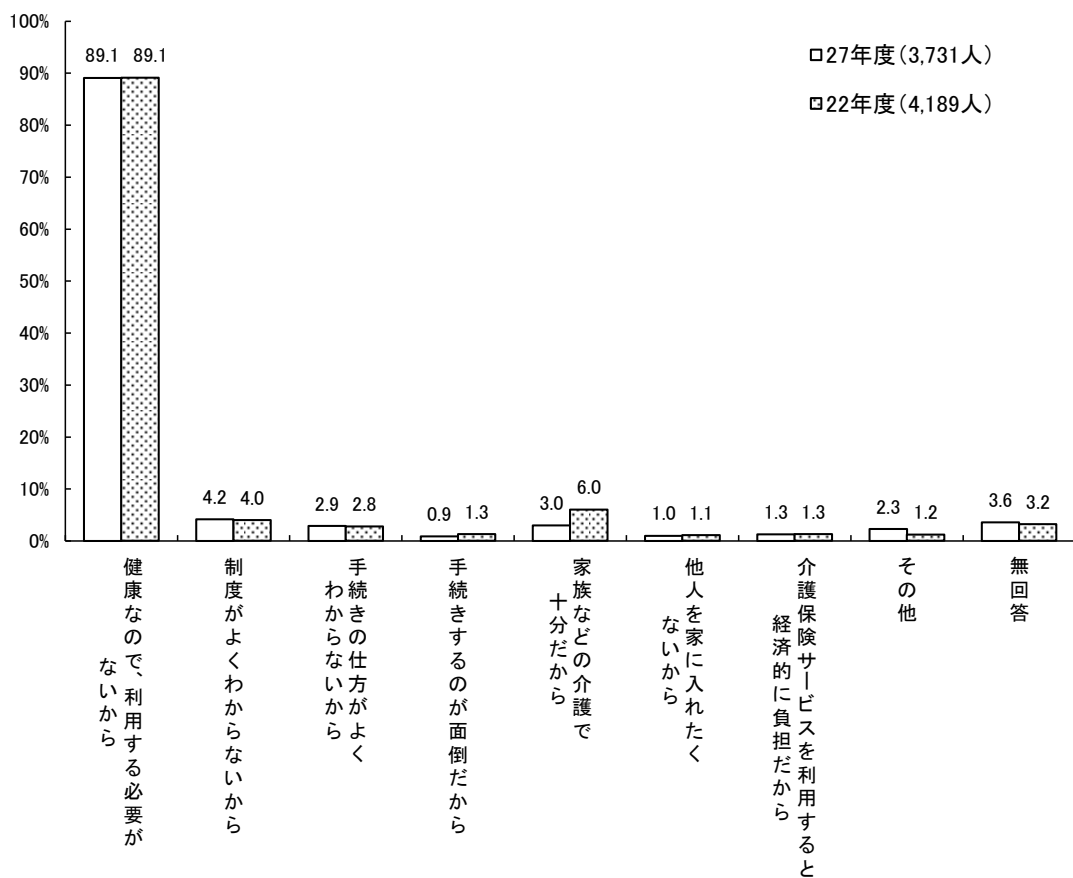
		総 数	い 認 定 を 申 請 し て い な い	認 定 を 申 請 中	認 定 が 認 定 さ れ た と し た	認 定 を 自 立 申 請 し た	い 認 定 を 受 け て い る	無 回 答
総数		100.0 (4,390)	85.0	0.6	0.4	12.5	1.5	
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (1,949)	87.8	0.6	0.5	<u>9.5</u>	1.5	
	65～74歳	100.0 (1,115)	94.3	0.4	0.2	<u>4.1</u>	1.1	
	75～84歳	100.0 (671)	83.9	0.7	0.9	<u>12.5</u>	1.9	
	85歳以上	100.0 (163)	59.5	1.8	1.2	<u>34.4</u>	3.1	
	(再掲)75歳以上	100.0 (834)	79.1	1.0	1.0	16.8	2.2	
	女	100.0 (2,441)	82.8	0.6	0.4	<u>14.8</u>	1.5	
	65～74歳	100.0 (1,242)	93.2	0.1	0.1	<u>4.8</u>	1.9	
	75～84歳	100.0 (916)	79.8	1.1	0.5	<u>17.1</u>	1.4	
	85歳以上	100.0 (283)	46.3	1.4	1.1	<u>51.2</u>	-	
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,199)	71.9	1.2	0.7	25.2	1.1	
動 作 能 力 類 型 別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (362)	16.0	2.2	0.3	80.7	0.8	
	寝たきり高齢者	100.0 (115)	<u>2.6</u>	2.6	-	<u>93.9</u>	0.9	
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (247)	22.3	2.0	0.4	74.5	0.8	
	比較的重い障害のある 高齢者	100.0 (356)	73.9	1.1	2.0	21.3	1.7	
	軽い障害のある高齢者	100.0 (907)	88.0	1.0	0.7	9.5	0.9	
	障害のない高齢者	100.0 (2,665)	95.4	0.2	0.2	3.0	1.2	
世 帯 類 型 別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,520)	84.3	0.6	0.6	13.0	1.5	
	ひとり暮らし	100.0 (938)	79.7	0.6	0.7	17.0	1.9	
	高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	88.1	0.6	0.4	9.8	1.1	
	その他	100.0 (129)	75.2	-	0.8	20.2	3.9	
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,835)	86.2	0.7	0.3	11.9	1.0	
《22 参 考 度 》	総数	100.0 (4,767)	87.9	0.8	0.4	10.6	0.3	
	男	100.0 (2,057)	91.7	0.8	0.1	7.0	0.4	
	女	100.0 (2,710)	85.0	0.9	0.7	13.3	0.1	

(2) 要介護認定（要支援認定を含む。）を申請していない理由〔複数回答〕

「制度がよくわからないから」の割合が 4.2%、「家族などの介護で十分だから」が 3.0%

要介護認定（要支援認定を含む。）を申請していない人(3,731人)に、申請していない理由を聞いたところ、「制度がよくわからないから」の割合が 4.2%、「手続きの仕方がよくわからないから」が 2.9%、「家族などの介護で十分だから」が 3.0%となっている。一方、「健康なので、利用する必要がないから」が 89.1%となっている。（図 4-2）

図 4-2 要介護認定（要支援認定を含む。）を申請していない理由〔複数回答〕



ア 要介護認定（要支援認定を含む。）を申請していない理由〔複数回答〕

一性・年齢階級、動作能力類型別

寝たきりなどの高齢者は、「家族などの介護で十分だから」の割合が最も高く、4割

要介護認定（要支援認定を含む。）を申請していない理由を年齢階級別にみると、85歳以上では「家族などの介護で十分だから」の割合が9.6%で、他の年齢階級の割合（1.4%、4.6%）と比較して高くなっている。

動作能力類型別にみると、寝たきりなどの高齢者は、「家族などの介護で十分だから」の割合が最も高く、43.1%となっている。一方、寝たきりなどの高齢者以外では、「健康なので、利用する必要がないから」の割合が最も高くなっている（76.0%～93.7%）。  
（表4-2）

表4-2 要介護認定（要支援認定を含む。）を申請していない理由〔複数回答〕

一性・年齢階級、動作能力類型別

	総数	健康 がな い か ら 利 用 す る	制 度 が よ く わ か ら な い	手 続 き の 仕 方 が よ く わ か ら な い	手 続 き す る の が 面 倒 だ	家 族 な ど の 介 護 で 十 分	他 人 を 家 に 入 れ た く な	介 護 保 険 サ ー ビ ス を 利 用 し な い	そ の 他	無 回 答
総数	100.0 (3,731)	89.1	4.2	2.9	0.9	3.0	1.0	1.3	2.3	3.6
性別	男	100.0 (1,711)	88.8	4.6	2.7	0.9	3.4	0.8	1.2	4.2
	女	100.0 (2,020)	89.5	3.9	3.2	0.9	2.7	1.1	1.3	3.1
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,209)	92.1	3.9	2.6	0.8	<u>1.4</u>	0.7	0.8	3.1
	75～84歳	100.0 (1,294)	85.9	4.7	3.5	1.1	<u>4.6</u>	1.2	2.0	3.7
	85歳以上	100.0 (228)	78.5	3.5	3.5	1.8	<u>9.6</u>	2.2	1.3	7.5
	（再掲） 75歳以上	100.0 (1,522)	84.8	4.5	3.5	1.2	5.4	1.3	1.9	4.3
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (58)	8.6	10.3	12.1	3.4	<u>43.1</u>	12.1	3.4	24.1
	比較的重い障害のある 高齢者	100.0 (263)	<u>76.0</u>	7.2	6.8	1.9	5.7	1.9	3.0	9.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (798)	<u>86.1</u>	7.0	5.0	2.0	4.8	1.4	1.9	3.3
	障害のない高齢者	100.0 (2,543)	<u>93.7</u>	2.8	1.7	0.4	1.3	0.4	0.7	2.5

## 2 要支援・要介護度及び介護の状況

### (1) 要支援・要介護度一性・年齢階級、動作能力類型、世帯類型別

「要支援1」の割合が24.3%、「要介護2」が18.1%、「要介護1」が17.7%

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（547人）に要支援・要介護度について聞いたところ、「要支援1」の割合が最も高く24.3%、次いで「要介護2」が18.1%、「要介護1」が17.7%となっている。

性別にみると、男性は「要介護2」の割合が最も高く19.4%、女性は「要支援1」の割合が最も高く27.1%となっている。（表4-3）

表4-3 要支援・要介護度一性・年齢階級別、動作能力類型、世帯類型別

		総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
総数		100.0 (547)	<u>24.3</u>	16.6	<u>17.7</u>	<u>18.1</u>	11.0	6.6	2.9	2.7
性別	男	100.0 (186)	18.8	17.7	18.3	<u>19.4</u>	11.8	9.1	1.6	3.2
	女	100.0 (361)	<u>27.1</u>	16.1	17.5	17.5	10.5	5.3	3.6	2.5
年齢階級別	65～74歳	100.0 (105)	25.7	13.3	16.2	23.8	6.7	5.7	3.8	4.8
	75～84歳	100.0 (241)	29.5	18.7	17.0	17.0	8.7	4.6	1.2	3.3
	85歳以上	100.0 (201)	17.4	15.9	19.4	16.4	15.9	9.5	4.5	1.0
	(再掲)75歳以上	100.0 (442)	24.0	17.4	18.1	16.7	12.0	6.8	2.7	2.3
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (292)	7.5	10.3	16.1	28.1	18.8	11.6	5.1	2.4
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (76)	36.8	31.6	17.1	9.2	2.6	-	-	2.6
	軽い障害のある高齢者	100.0 (86)	46.5	20.9	24.4	7.0	-	-	-	1.2
	障害のない高齢者	100.0 (79)	49.4	21.5	17.7	2.5	1.3	1.3	-	6.3
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (328)	26.2	15.5	19.2	20.4	7.9	6.4	1.2	3.0
	ひとり暮らし	100.0 (159)	26.4	18.9	22.0	20.1	4.4	5.0	-	3.1
	高齢者夫婦のみ	100.0 (143)	28.7	13.3	15.4	20.3	9.8	7.0	2.1	3.5
	その他	100.0 (26)	11.5	7.7	23.1	23.1	19.2	11.5	3.8	-
	高齢者のみでない世帯	100.0 (218)	21.6	18.3	15.1	14.7	15.6	6.9	5.5	2.3
22年度		100.0 (505)	22.0	17.6	15.6	18.0	11.5	7.9	5.7	1.6

## (2) 介護の状況（対象者が介護を受けている状況）

介護をしている人は「子供」の割合が最も高く、4割超

最も介護をしている時間が長い人は「配偶者」の割合が高く、3割

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人（547人）が家族等から「介護を受けている」割合は78.1%、「介護は受けていない」は15.5%となっている。（図4-3）

介護を受けている人（427人）に、介護をしている人は誰か聞いたところ、「子供」の割合が最も高く47.8%、次いで「配偶者」が38.2%、「ホームヘルパーなどの介護職員」が34.9%となっている。（図4-4）

さらに、介護をしている人のうち、最も介護をしている時間が長い人は誰か聞いたところ、「配偶者」の割合が最も高く34.0%、次いで「子供」が28.1%、「ホームヘルパーなどの介護職員」が25.3%となっている。（図4-5）

図4-3 介護の有無

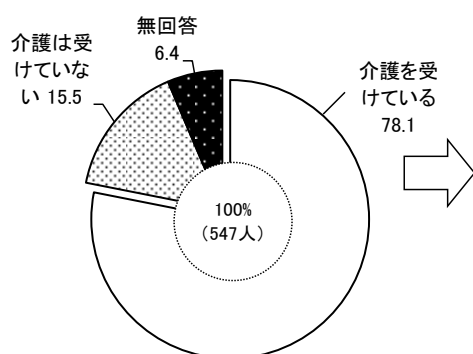


図4-4 介護をしている人〔複数回答〕

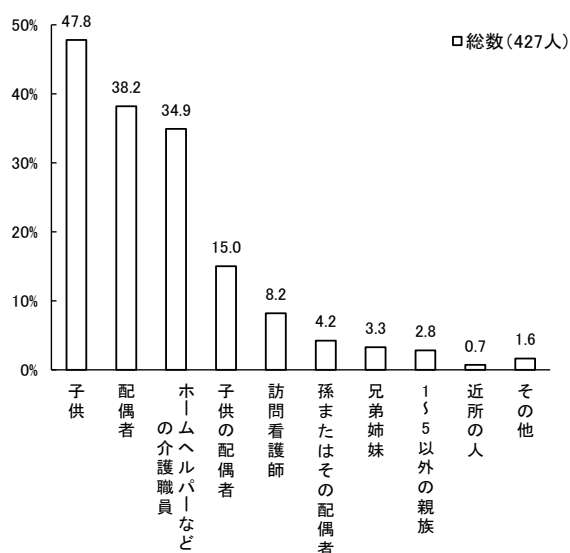
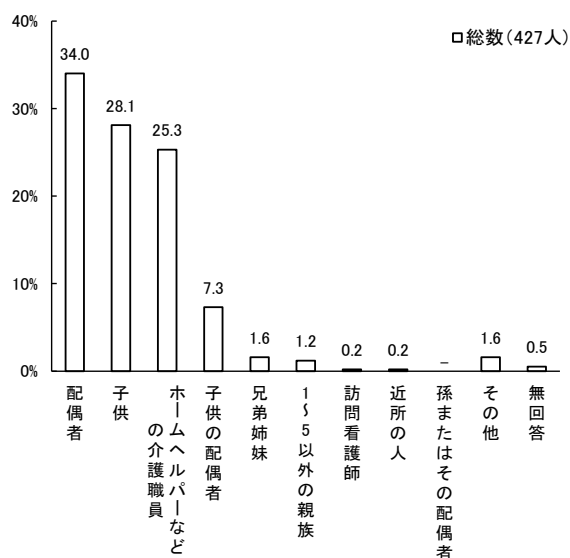


図4-5 最も介護をしている時間が長い人





ア 介護をしている人〔複数回答〕－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

男性を介護している人は「配偶者」、女性を介護している人は「子供」の割合が高い

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（427人）を誰が介護しているかについて、介護を受けている人の性・年齢階級別にみると、男性を介護している人は、「配偶者」の割合が最も高く66.3%、次いで「子供」37.5%、「ホームヘルパーなどの介護職員」30.0%となっている。女性を介護している人は、「子供」の割合が最も高く53.9%、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」37.8%、「配偶者」21.3%となっている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしの人を介護している人は、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が最も高く80.0%となっている。（表4-4）

表4-4 介護をしている人〔複数回答〕－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

		総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	15歳以上の親族	ホームヘルパーなどの介護職員	訪問看護師	近所の人	その他
総数		100.0 (427)	38.2	47.8	15.0	4.2	3.3	2.8	34.9	8.2	0.7	1.6
性・年齢階級別	男	100.0 (160)	66.3	37.5	9.4	1.3	2.5	2.5	30.0	9.4	1.3	-
	65～74歳	100.0 (37)	64.9	18.9	-	-	8.1	-	35.1	13.5	2.7	-
	75～84歳	100.0 (71)	76.1	33.8	11.3	1.4	1.4	1.4	23.9	5.6	-	-
	85歳以上	100.0 (52)	53.8	55.8	13.5	1.9	-	5.8	34.6	11.5	1.9	-
	(再掲)75歳以上	100.0 (123)	66.7	43.1	12.2	1.6	0.8	3.3	28.5	8.1	0.8	-
	女	100.0 (267)	21.3	53.9	18.4	6.0	3.7	3.0	37.8	7.5	0.4	2.6
	65～74歳	100.0 (44)	38.6	18.2	9.1	4.5	11.4	6.8	45.5	9.1	0.0	6.8
	75～84歳	100.0 (100)	30.0	52.0	14.0	5.0	2.0	1.0	41.0	7.0	1.0	2.0
85歳以上	100.0 (123)	8.1	68.3	25.2	7.3	2.4	3.3	32.5	7.3	-	1.6	
(再掲)75歳以上	100.0 (223)	17.9	61.0	20.2	6.3	2.2	2.2	36.3	7.2	0.4	1.8	
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (208)	78.4	36.5	5.8	0.5	1.0	2.4	24.0	7.2	0.5	-
	男	100.0 (125)	84.8	34.4	6.4	-	1.6	2.4	23.2	8.8	-	-
	女	100.0 (83)	68.7	39.8	4.8	1.2	-	2.4	25.3	4.8	1.2	-
	配偶者なし	100.0 (218)	-	58.7	23.9	7.8	5.5	3.2	45.0	9.2	0.9	3.2
	未婚	100.0 (27)	-	-	-	-	25.9	18.5	66.7	11.1	-	3.7
	死別	100.0 (173)	-	71.1	30.1	9.2	1.7	1.2	39.3	9.2	-	2.9
離別	100.0 (18)	-	27.8	-	5.6	11.1	-	66.7	5.6	11.1	5.6	
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (244)	41.8	27.5	7.0	0.4	4.1	2.9	49.2	8.2	1.2	2.0
	ひとりぐらし	100.0 (100)	2.0	26.0	8.0	-	5.0	5.0	80.0	11.0	2.0	4.0
	高齢者夫婦のみ	100.0 (119)	82.4	18.5	3.4	0.8	0.8	1.7	31.1	7.6	0.8	-
	その他	100.0 (25)	8.0	76.0	20.0	-	16.0	-	12.0	-	-	4.0
	高齢者のみでない世帯	100.0 (182)	33.0	75.3	25.8	9.3	2.2	2.7	15.4	8.2	-	1.1

イ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

最も長い時間、男性を介護している人は「配偶者」、女性を介護している人は「子供」

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（427人）を誰が最も長い時間介護をしているかについて、介護を受けている人の性・年齢階級別にみると、男性を最も長い時間介護している人は、「配偶者」の割合が最も高く59.4%、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」17.5%、「子供」15.0%となっている。女性を最も長い時間介護している人は、「子供」の割合が最も高く36.0%、次いで「ホームヘルパーなどの介護職員」30.0%、「配偶者」18.7%となっている。

世帯類型別にみると、ひとり暮らしの人を最も長い時間介護している人は、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が最も高く73.0%となっている。（表4-5）

表4-5 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型別

		総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	族1～5以外の親	ホームヘルパーなどの介護職員	訪問看護師	近所の人	その他	無回答
総数		100.0 (427)	34.0	28.1	7.3	-	1.6	1.2	25.3	0.2	0.2	1.6	0.5
性・年齢階級別	男	100.0 (160)	59.4	15.0	3.1	-	1.3	1.9	17.5	0.6	0.6	-	0.6
	65～74歳	100.0 (37)	62.2	8.1	-	-	5.4	-	24.3	-	-	-	-
	75～84歳	100.0 (71)	67.6	12.7	4.2	-	-	1.4	12.7	-	-	-	1.4
	85歳以上	100.0 (52)	46.2	23.1	3.8	-	-	3.8	19.2	1.9	1.9	-	-
	(再掲)75歳以上	100.0 (123)	58.5	17.1	4.1	-	-	2.4	15.4	0.8	0.8	-	0.8
	女	100.0 (267)	18.7	36.0	9.7	-	1.9	0.7	30.0	-	-	2.6	0.4
	65～74歳	100.0 (44)	36.4	9.1	4.5	-	4.5	-	38.6	-	-	6.8	-
	75～84歳	100.0 (100)	24.0	30.0	9.0	-	2.0	-	33.0	-	-	2.0	-
	85歳以上	100.0 (123)	8.1	50.4	12.2	-	0.8	1.6	24.4	-	-	1.6	0.8
	(再掲)75歳以上	100.0 (223)	15.2	41.3	10.8	-	1.3	0.9	28.3	-	-	1.8	0.4
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (208)	69.7	13.5	2.4	-	-	1.0	13.0	-	-	-	0.5
	男	100.0 (125)	76.0	9.6	1.6	-	-	1.6	10.4	-	-	-	0.8
	女	100.0 (83)	60.2	19.3	3.6	-	-	-	16.9	-	-	-	-
	配偶者なし	100.0 (218)	-	42.2	11.9	-	3.2	1.4	36.7	0.5	0.5	3.2	0.5
	未婚	100.0 (27)	-	-	-	-	22.2	7.4	66.7	-	-	3.7	-
	死別	100.0 (173)	-	50.3	15.0	-	-	0.6	30.1	0.6	-	2.9	0.6
離別	100.0 (18)	-	27.8	-	-	5.6	-	55.6	-	5.6	5.6	-	
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (244)	38.5	15.6	1.2	-	2.0	1.6	38.1	-	0.4	2.0	0.4
	ひとり暮らし	100.0 (100)	2.0	15.0	-	-	2.0	3.0	73.0	-	1.0	4.0	-
	高齢者夫婦のみ	100.0 (119)	75.6	5.9	0.8	-	-	0.8	16.0	-	-	-	0.8
	その他	100.0 (25)	8.0	64.0	8.0	-	12.0	-	4.0	-	-	4.0	-
	高齢者のみでない世帯	100.0 (182)	27.5	45.1	15.4	-	1.1	0.5	8.2	0.5	-	1.1	0.5

ウ 介護をしている人〔複数回答〕－動作能力類型、要支援・要介護度別

寝たきりなどの高齢者を介護している人は、「子供」の割合が最も高く5割

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（427人）を誰が介護しているかについて、介護を受けている人の動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者、寝たきりに近い高齢者を介護している人は、「子供」の割合が最も高くそれぞれ58.5%、50.3%となっている。（表4-6）

表4-6 介護をしている人〔複数回答〕－動作能力類型、要支援・要介護度別

	総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	1～5以外の親族	ホームヘルパーなどの介護職員	訪問看護師	近所の人	その他	
総数	100.0 (427)	38.2	47.8	15.0	4.2	3.3	2.8	34.9	8.2	0.7	1.6	
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (275)	38.5	53.5	16.0	5.1	4.4	3.3	31.3	10.9	0.4	1.8
	寝たきり高齢者	100.0 (106)	40.6	<u>58.5</u>	18.9	4.7	3.8	3.8	29.2	14.2	0.9	3.8
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (169)	37.3	<u>50.3</u>	14.2	5.3	4.7	3.0	32.5	8.9	-	0.6
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (55)	29.1	38.2	16.4	1.8	-	1.8	52.7	3.6	-	-
	軽い障害のある高齢者	100.0 (52)	42.3	28.8	13.5	1.9	1.9	-	38.5	1.9	3.8	1.9
	障害のない高齢者	100.0 (35)	34.3	45.7	11.4	-	2.9	5.7	31.4	5.7	-	2.9
要支援・要介護度別	要支援1	100.0 (75)	44.0	34.7	8.0	2.7	2.7	2.7	30.7	1.3	-	2.7
	要支援2	100.0 (60)	30.0	43.3	18.3	-	-	5.0	33.3	1.7	-	1.7
	要介護1	100.0 (76)	34.2	51.3	13.2	6.6	3.9	-	30.3	6.6	2.6	-
	要介護2	100.0 (95)	38.9	44.2	18.9	4.2	6.3	1.1	42.1	11.6	1.1	1.1
	要介護3	100.0 (60)	36.7	63.3	20.0	8.3	-	6.7	33.3	11.7	-	1.7
	要介護4	100.0 (34)	52.9	58.8	8.8	5.9	5.9	2.9	35.3	20.6	-	2.9
	要介護5	100.0 (16)	25.0	56.3	18.8	-	6.3	6.3	37.5	12.5	-	-

## エ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

### －動作能力類型、要支援・要介護度別

最も長い時間、寝たきりなどの高齢者を介護している人は、「配偶者」と「子供」

要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人（427人）を誰が最も長い時間介護しているかについて、介護を受けている人の動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者、寝たきりに近い高齢者を最も長い時間介護している人は、「配偶者」の割合が最も高くそれぞれ34.9%、次いで「子供」32.1%、30.8%となっている。比較的重い障害のある高齢者を最も長い時間介護している人は、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が40.0%で、他の動作能力の人と比較して最も高い割合になっている。（表4-7）

表4-7 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人

### －動作能力類型、要支援・要介護度別

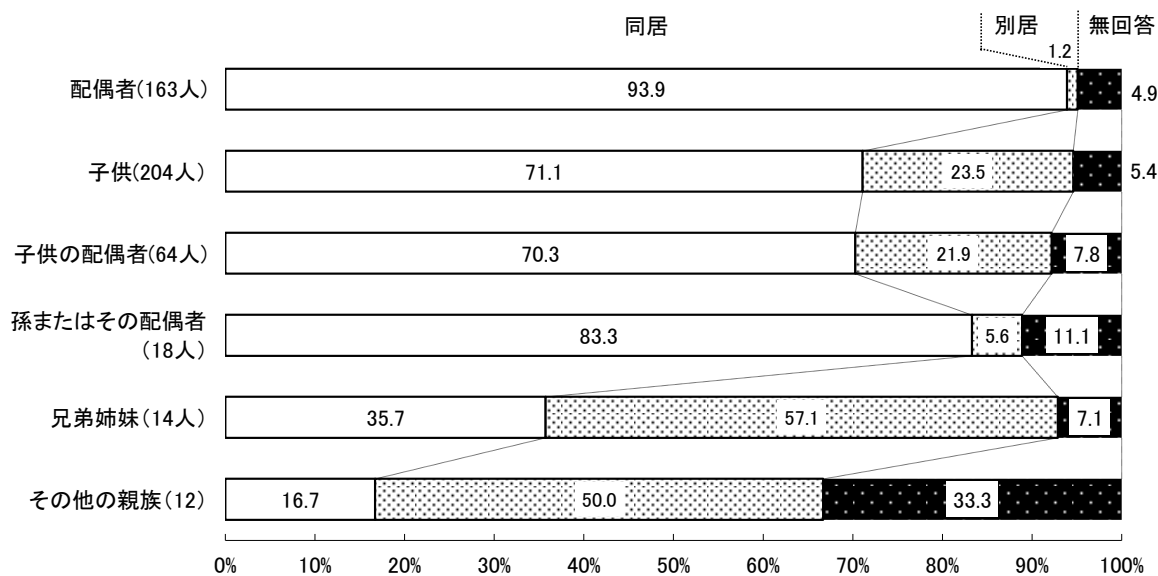
	総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	1～5以外の親族	ホームヘルパーなどの介護職員	訪問看護師	近所の人	その他	無回答	
総数	100.0 (427)	34.0	28.1	7.3	-	1.6	1.2	25.3	0.2	0.2	1.6	0.5	
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者	100.0 (275)	34.9	31.3	7.6	-	2.5	1.1	20.0	-	-	1.8	0.7
	寝たきり高齢者	100.0 (106)	<u>34.9</u>	<u>32.1</u>	10.4	-	1.9	1.9	13.2	-	-	3.8	1.9
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (169)	<u>34.9</u>	<u>30.8</u>	5.9	-	3.0	0.6	24.3	-	-	0.6	-
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (55)	25.5	23.6	9.1	-	-	1.8	<u>40.0</u>	-	-	-	-
	軽い障害のある高齢者	100.0 (52)	38.5	15.4	5.8	-	-	-	34.6	1.9	1.9	1.9	-
	障害のない高齢者	100.0 (35)	28.6	31.4	5.7	-	-	2.9	28.6	-	-	2.9	-
要支援・要介護度別	要支援1	100.0 (75)	41.3	21.3	2.7	-	1.3	1.3	29.3	-	-	2.7	-
	要支援2	100.0 (60)	25.0	31.7	10.0	-	-	3.3	28.3	-	-	1.7	-
	要介護1	100.0 (76)	31.6	35.5	7.9	-	-	-	22.4	1.3	1.3	-	-
	要介護2	100.0 (95)	32.6	22.1	9.5	-	4.2	-	30.5	-	-	1.1	-
	要介護3	100.0 (60)	31.7	33.3	10.0	-	-	3.3	18.3	-	-	1.7	1.7
	要介護4	100.0 (34)	52.9	23.5	-	-	2.9	-	17.6	-	-	2.9	-
	要介護5	100.0 (16)	18.8	37.5	12.5	-	6.3	-	25.0	-	-	-	-

## オ 介護をしている人の同居の有無

子供又は子供の配偶者が介護している場合、いずれも「同居」が7割

介護している人（配偶者、子供、子供の配偶者、孫またはその配偶者、兄弟姉妹、その他の親族）を同居の有無別にみると、子供が介護している場合、「同居」の割合は71.1%、子供の配偶者が介護している場合、70.3%となっている。（図4-6）

図4-6 介護をしている人の同居の有無

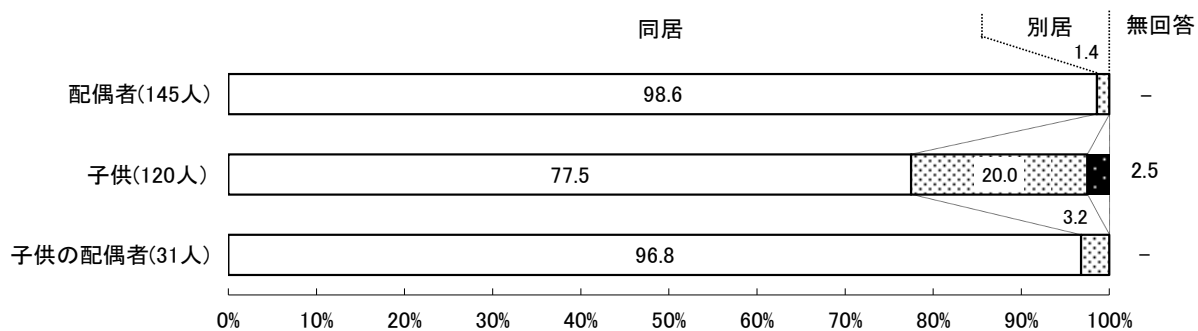


カ 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人の同居の有無

最も長い時間、介護している人が「子供」の場合、「同居」7割超、「別居」2割

最も長い時間介護している人のうち、配偶者、子供、子供の配偶者について、同居の有無別にみると、「子供」の場合、「同居」は77.5%、「別居」は20.0%となっている。(図4-7)

図4-7 介護をしている人のうち、最も介護している時間が長い人の同居の有無



注) 母集団が「孫またはその配偶者」は0人、「兄弟姉妹」は7人、「その他親族」は5人のため省略した。

### 3 望む介護のあり方

#### (1) 在宅で介護を受ける場合に望む介護のあり方〔複数回答〕

対象者全員に、自分自身に介護が必要となり、在宅で介護を受ける場合に、どのような介護を希望するか（現在、介護を受けている人は、現況にかかわらず、どのような介護を希望するか）を聞いた。

望む在宅介護のあり方は、「介護サービスを利用した介護」が7割

「介護サービスを利用した介護」の割合が最も高く70.9%、次いで「家族や親族による介護」が48.9%となっている。（図4-8）

さらに、在宅で介護を受ける場合に、どのような介護を希望するかを答えた人（4,086人）に、そのうち、最も希望する介護を聞いたところ、「介護サービスを利用した介護」の割合が最も高く59.4%となっている。（図4-9）

図4-8 在宅で介護を受ける場合に望む介護のあり方〔複数回答〕

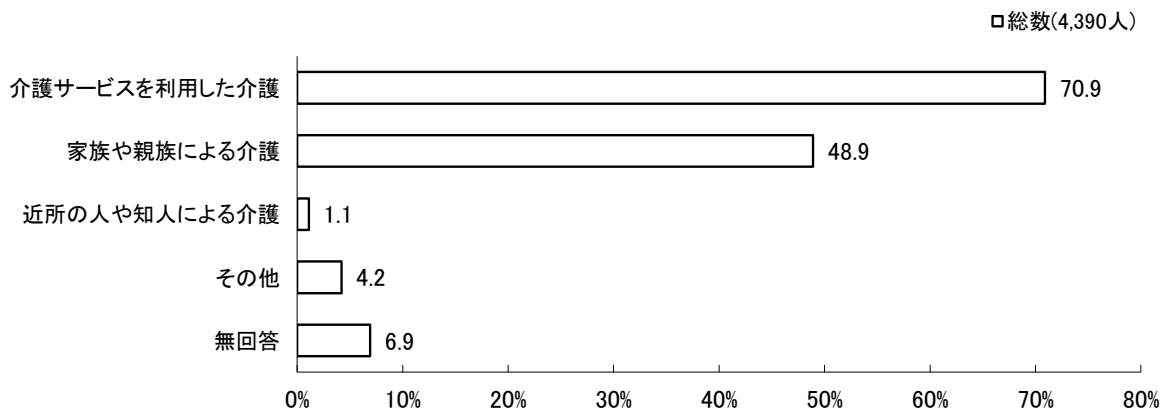
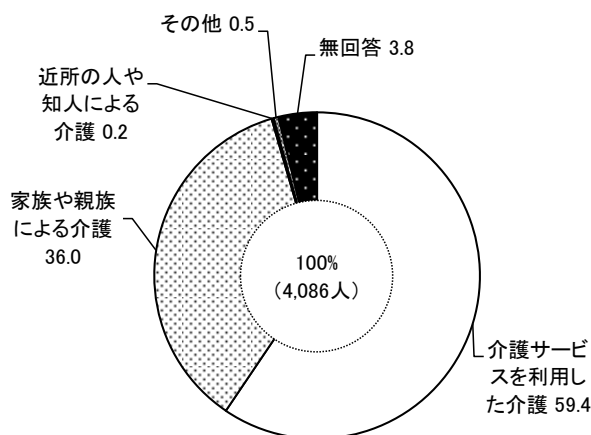


図4-9 最も希望する介護



ア 在宅で介護を受ける場合に望む介護のあり方〔複数回答〕

一性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型、介護の状況別

男女とも「介護サービスを利用した介護」を望む人の割合が最も高く、男性 66.1%、女性 74.8%

在宅で介護を受ける場合に望む介護のあり方を性別で見ると、「家族や親族による介護」を望む人の割合は男性 55.9%、女性 43.2%で、男性の方が 12.7 ポイント高くなっている。「介護サービスを利用した介護」を望む人の割合は男性 66.1%、女性 74.8%で、女性の方が 8.7 ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「介護サービスを利用した介護」を望む人の割合が低くなっている（51.8%～75.3%）。

世帯類型別にみると、「介護サービスを利用した介護」を望む人の割合は、ひとりぐらしは 80.6%で、他の類型と比べて高くなっている。

介護の状況別にみると、「家族や親族による介護」を望む人の割合は、介護をしている人は 45.1%、介護をしていない人は 49.7%で、介護をしていない人の方が 4.6 ポイント高くなっている。（表 4-8）

表 4-8 在宅で介護を受ける場合に望む介護のあり方〔複数回答〕

一性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型、介護の状況別

		総数	よ家族 る介 や親 族に	護を介 利護 用サ しし たビ 介ス	人近 に所 よの る人 介や 護知	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (4,390)	48.9	70.9	1.1	4.2	6.9
性別	男	100.0 (1,949)	55.9	66.1	0.9	4.1	7.3
	女	100.0 (2,441)	43.2	74.8	1.3	4.3	6.6
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,357)	49.3	75.3	1.1	4.0	4.3
	75～84歳	100.0 (1,587)	48.6	69.8	1.1	4.6	6.6
	85歳以上	100.0 (446)	47.5	51.8	1.1	4.3	21.7
	〈再掲〉75歳以上	100.0 (2,033)	48.4	65.8	1.1	4.5	9.9
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (2,744)	58.2	69.5	0.8	2.9	6.1
	配偶者なし	100.0 (1,628)	33.5	73.3	1.6	6.4	8.2
	未婚	100.0 (295)	12.2	80.0	1.7	11.9	4.7
	死別	100.0 (1,032)	41.0	70.0	1.5	4.9	9.8
	離別	100.0 (301)	28.6	78.4	2.0	6.0	6.3
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,520)	41.9	75.3	1.2	5.3	5.8
	ひとりぐらし	100.0 (938)	22.4	80.6	1.9	9.0	4.4
	高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	54.4	73.2	0.7	3.0	5.7
	その他	100.0 (129)	43.4	60.5	2.3	4.7	17.8
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,835)	58.3	65.0	0.9	2.8	8.1
状況別の	介護をしている	100.0 (474)	45.1	80.8	0.8	3.6	4.2
	介護をしていない	100.0 (3,802)	49.7	70.1	1.1	4.3	6.8



(2) 最も希望する介護－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型、介護の状況別

最も希望する介護は、男女とも「介護サービスを利用した介護」の割合が最も高く、男性 51.2%、女性 66.0%

在宅で介護を受ける場合に最も希望する介護のあり方を性別でみると、「家族や親族による介護」を望む人の割合が、男性 43.7%、女性 29.8%で、男性の方が 13.9 ポイント高くなっている。「介護サービスを利用した介護」を望む人の割合は男性 51.2%、女性 66.0%で、女性の方が 14.8 ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、年齢が上がるにつれて、「家族や親族による介護」を望む人の割合が高くなっている（33.0%～47.3%）。

配偶者の有無別にみると、どちらも「介護サービスを利用した介護」を望む人の割合が最も高く 53.7%、69.3%で、配偶者なしの方が 15.6 ポイント高くなっている。

世帯類型別にみると、「介護サービスを利用した介護」を望む人の割合は、ひとりぐらしは 77.6%で、他の類型に比べて高くなっている。

介護の状況別にみると、「家族や親族による介護」を望む人の割合は、介護をしている人は 28.6%、介護していない人は 37.0%で、介護をしていない人の方が 8.4 ポイント高くなっている。（表 4-9）

表 4-9 最も希望する介護－性・年齢階級、配偶者の有無、世帯類型、介護の状況別

		総数	よ家族 る族 介や 護親 族に	護を介 利護 用サ しし たビ 介ス	人近 に所 よの る人 介や 護知	そ の 他	無 回 答
総数		100.0 (4,086)	36.0	59.4	0.2	0.5	3.8
性別	男	100.0 (1,806)	43.7	51.2	0.3	0.4	4.4
	女	100.0 (2,280)	29.8	66.0	0.1	0.7	3.4
年齢階級別	65～74歳	100.0 (2,255)	33.0	62.6	0.3	0.4	3.8
	75～84歳	100.0 (1,482)	37.8	57.6	0.1	0.7	3.9
	85歳以上	100.0 (349)	47.3	47.3	0.3	1.1	4.0
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,831)	39.6	55.6	0.1	0.8	3.9
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (2,577)	43.1	53.7	0.0	0.4	2.8
	配偶者なし	100.0 (1,494)	24.0	69.3	0.5	0.7	5.5
	未婚	100.0 (281)	8.5	80.1	0.4	1.1	10.0
	死別	100.0 (931)	31.0	63.7	0.3	0.8	4.2
	離別	100.0 (282)	16.0	77.3	1.1	0.4	5.3
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,373)	29.4	65.1	0.3	0.7	4.6
	ひとりぐらし	100.0 (897)	13.4	77.6	0.6	1.1	7.4
	高齢者夫婦のみ	100.0 (1,370)	39.2	57.4	-	0.5	2.8
	その他	100.0 (106)	38.7	57.5	0.9	-	2.8
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,687)	45.3	51.5	0.1	0.3	2.8
状況別の	介護をしている	100.0 (454)	28.6	68.3	0.2	0.7	2.2
	介護をしていない	100.0 (3,542)	37.0	58.3	0.1	0.5	4.0

## 4 日常生活支援サービス

### (1) 日常生活支援サービスの現在の利用状況

日常生活支援サービスを「利用している」人の割合は、1割

対象者全員に、日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の利用状況を聞いたところ、「現在利用しているサービスはない」の割合が82.8%で、「利用している」人は、10.1%であった。（図4-10）

利用している人(445人)に利用しているサービスについて聞いたところ、「家事援助(掃除、洗濯、買い物など)」の割合が最も高く40.2%、次いで「配食サービス」が28.3%、「緊急通報システム・火災安全システムの設置」が26.3%となっている。（図4-11）

図4-10 日常生活支援サービスの現在の利用状況

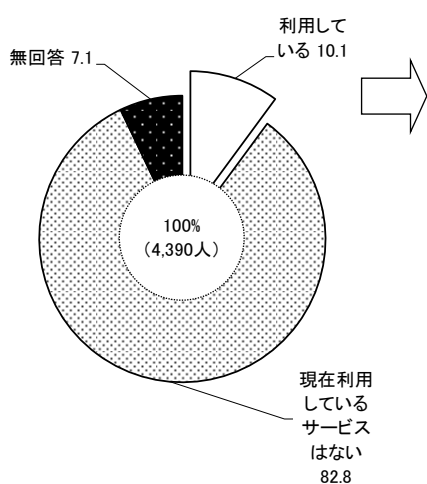
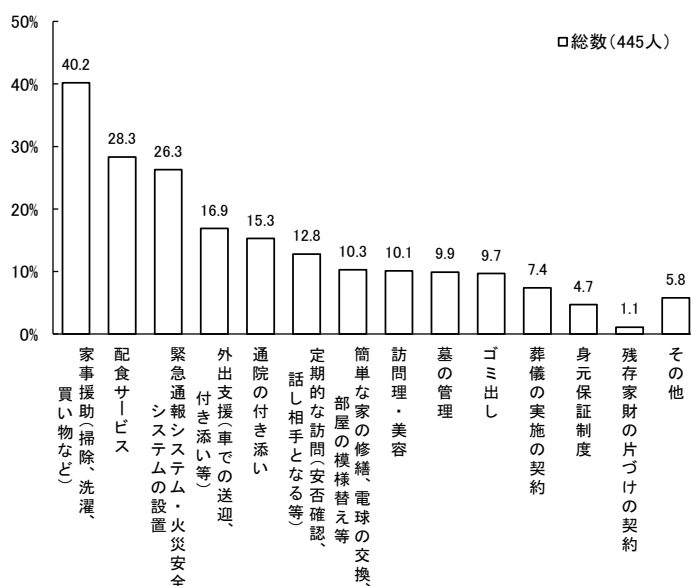


図4-11 利用しているサービス〔複数回答〕



ア 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕－性・年齢階級、世帯類型別

85歳以上では「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が男女とも1割超

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の利用状況を性・年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」、「配食サービス」、「緊急通報システム・火災安全システムの設置」などの利用割合が上がっている。

特に85歳以上では、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が男性10.4%、女性16.6%でそれぞれ1割を超えている。

世帯類型別にみると、ひとりぐらしの人は、「配食サービス」の割合が5.2%、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」が11.0%で、総数の割合（2.9%、4.1%）に比べて高くなっている。（表4-10）

表4-10 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕

－性・年齢階級、世帯類型別

	総数	配食サービス	家事援助（掃除、洗濯、買い物など）	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	ゴミ出し	外出支援（車での送迎、付き添い等）	通院の付き添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）	緊急通報システム・火災安全システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	現在利用しているサービスはない	無回答	
総数	100.0 (4,390)	2.9	4.1	1.0	1.0	1.7	1.5	1.3	2.7	1.0	0.5	0.8	0.1	1.0	0.6	82.8	7.1	
性・年齢階級別	男	100.0 (1,949)	2.6	2.7	0.9	0.7	1.3	1.4	1.2	2.4	0.6	0.3	0.6	0.2	1.0	0.6	83.9	7.7
	65～74歳	100.0 (1,115)	1.3	1.5	0.6	0.6	0.7	0.6	0.9	1.3	0.2	0.3	-	0.6	0.4	88.8	6.6	
	75～84歳	100.0 (671)	3.1	2.8	0.7	0.9	1.5	1.6	1.2	2.8	0.6	0.1	0.4	0.1	1.0	0.9	80.6	8.9
	85歳以上	100.0 (163)	9.8	10.4	3.1	0.6	4.3	6.1	3.7	8.0	3.7	1.2	3.7	1.2	3.1	-	63.8	10.4
	（再掲）75歳以上	100.0 (834)	4.4	4.3	1.2	0.8	2.0	2.5	1.7	3.8	1.2	0.4	1.1	0.4	1.4	0.7	77.3	9.2
	女	100.0 (2,441)	3.1	5.2	1.2	1.2	2.0	1.6	1.4	2.9	1.4	0.6	0.9	0.1	1.0	0.6	81.9	6.5
	65～74歳	100.0 (1,242)	1.4	2.2	0.3	0.5	0.6	0.7	0.8	1.4	0.5	0.5	0.6	-	0.5	0.4	88.6	5.7
	75～84歳	100.0 (916)	3.8	5.7	1.9	1.3	2.2	1.6	1.2	3.8	1.2	0.3	1.0	0.1	1.6	0.2	81.0	6.1
	85歳以上	100.0 (283)	7.8	16.6	2.8	3.9	7.8	5.7	4.2	6.4	5.7	2.1	1.8	0.4	1.4	2.8	55.5	11.3
	（再掲）75歳以上	100.0 (1,199)	4.8	8.3	2.1	1.9	3.5	2.6	1.9	4.4	2.3	0.8	1.2	0.2	1.6	0.8	75.0	7.3
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,520)	3.5	6.1	1.6	1.5	2.2	1.9	1.7	2.9	1.2	0.8	1.0	0.2	1.3	0.6	81.9	6.0
	ひとりぐらし	100.0 (938)	5.2	11.0	3.2	3.3	3.6	2.8	3.1	4.8	2.2	1.4	1.2	0.1	1.6	0.9	76.0	6.0
	高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	2.6	3.2	0.8	0.5	1.4	1.4	1.0	1.9	0.7	0.4	0.9	0.2	1.2	0.4	86.0	5.4
	その他	100.0 (129)	1.6	3.1	-	0.8	0.8	-	0.8	0.8	-	0.8	-	-	0.8	0.8	79.1	14.0
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,835)	2.0	1.4	0.2	0.2	1.0	1.1	0.7	2.4	0.8	0.1	0.5	0.1	0.5	0.6	84.5	8.0

イ 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕

－動作能力類型、要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別

要介護認定を受けている人では「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」が2割超

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の利用状況を動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者では、「外出支援（車での送迎、付き添い等）」の割合が最も高く18.3%、次いで「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」16.5%、「通院の付き添い」14.8%で、総数の割合（1.7%、4.1%、1.5%）に比べても高くなっている。

寝たきりに近い高齢者では、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が最も高く21.9%、次いで「配食サービス」17.4%、「外出支援（車での送迎、付き添い等）」15.0%で、総数の割合（4.1%、2.9%、1.7%）に比べても高くなっている。

要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別にみると、認定を受けている人では、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が最も高く26.9%となっている。（表4-11）

表 4-11 日常生活支援サービスの現在の利用状況〔複数回答〕

－動作能力類型、要介護認定（要支援認定を含む。）申請の有無別

	総数	配食サービス	家事援助（掃除、洗濯、買い物など）	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	ゴミ出し	外出支援（車での送迎、付き添い等）	通院の付き添い	話し相手となる等（安否確認、等）	定期的な訪問（安全確認、設置）	緊急通報システムの設置・火災安	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	は現在利用しているサービス	無回答
総数	100.0 (4,390)	2.9	4.1	1.0	1.0	1.7	1.5	1.3	2.7	1.0	0.5	0.8	0.1	1.0	0.6	82.8	7.1	
動作能力類型別	寝たきりなどの高齢者 (362)	100.0	14.4	20.2	6.1	7.7	16.0	13.5	9.7	8.8	11.3	3.6	0.8	0.3	1.7	3.9	42.5	13.8
	寝たきり高齢者 (115)	100.0	7.8	16.5	4.3	5.2	18.3	14.8	12.2	7.0	13.0	2.6	0.9	0.9	0.9	7.0	37.4	14.8
	寝たきりに近い高齢者 (247)	100.0	17.4	21.9	6.9	8.9	15.0	13.0	8.5	9.7	10.5	4.0	0.8	-	2.0	2.4	44.9	13.4
	比較的重い障害のある高齢者 (356)	100.0	3.7	8.4	0.8	1.4	1.7	1.7	2.0	3.4	0.6	0.6	0.8	0.3	2.2	0.8	65.4	18.5
	軽い障害のある高齢者 (907)	100.0	2.5	3.7	1.3	0.4	0.6	0.7	1.1	3.6	0.1	0.1	1.2	0.2	1.2	0.4	84.5	5.4
障害のない高齢者 (2,665)	100.0	1.4	1.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	1.5	0.0	0.1	0.6	0.0	0.6	0.2	91.8	3.4	
要介護認定申請の有無別	認定を申請していない (3,731)	100.0	1.4	0.8	0.3	0.2	0.1	0.1	0.2	2.0	0.0	0.2	0.7	0.1	0.8	0.2	89.4	5.7
	認定を申請中 (27)	100.0	7.4	-	-	-	3.7	3.7	3.7	-	-	-	-	-	-	-	85.2	3.7
	認定を申請したが、「自立」と認定された (19)	100.0	10.5	5.3	5.3	5.3	-	-	-	-	5.3	-	-	-	-	5.3	73.7	10.5
	認定を受けている (547)	100.0	12.8	26.9	6.4	6.6	13.0	11.3	8.6	7.7	7.9	2.7	1.1	0.5	2.6	2.9	42.6	11.0

## (2) 日常生活支援サービスの今後の利用意向

対象者全員に、日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の今後の利用意向を聞いた。現在、利用していない人については、今後、体の具合が悪くなるなどで必要になった場合に利用したいサービスを聞いた。

今後「利用したいサービスがある」人の割合は、5割超

「利用したいサービスがある」人の割合は56.5%で、一方、「今後利用したいサービスはない」の割合は33.6%であった。（図4-12）

利用したいサービスについて、利用したい人(2,481人)に聞いたところ、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が65.5%、次いで「配食サービス」が62.0%、「通院の付き添い」が42.6%、「外出支援（車での送迎、付き添い等）」41.5%となっている。（図4-13）

図4-12 日常生活支援サービスの今後の利用意向

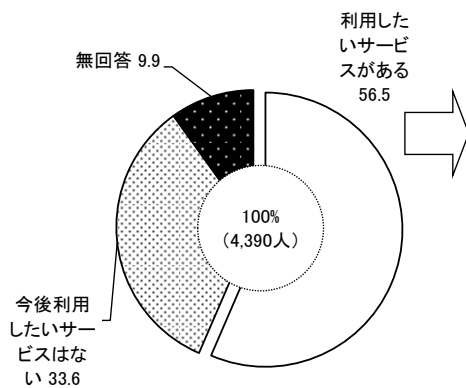
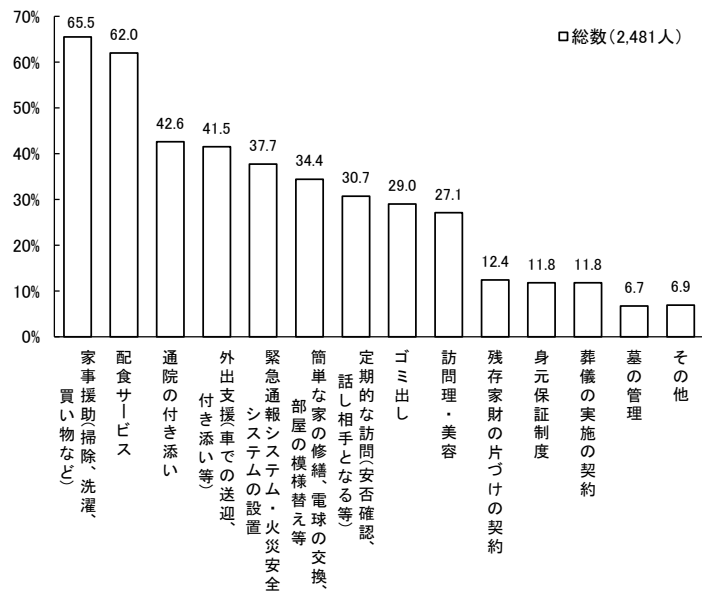


図4-13 利用したいサービス〔複数回答〕



ア 日常生活支援サービスの今後の利用意向〔複数回答〕－性・年齢階級、世帯類型別

65～74歳女性が今後利用したいのは、「配食サービス」、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」で、それぞれ4割超

日常の生活を支援するサービス（民間・公的を問わない。）の今後の利用意向を性・年齢階級別にみると、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合は、男性31.5%、女性41.4%で女性の方が9.9ポイント高くなっている。

特に、65～74歳女性では、「家事援助（掃除、洗濯、買い物など）」の割合が46.9%、「配食サービス」の割合が42.8%と高く、4割を超えている。（表4-12）

表4-12 日常生活支援サービスの今後の利用意向〔複数回答〕

－性・年齢階級、世帯類型別

	総数	配食サービス	家事援助（掃除、洗濯、買い物など）	簡単な家の修繕、模様替え等	ゴミ出し	外出支援（車での送迎、付き添い等）	通院の付き添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）	緊急通報システム・火災安全システムの設定	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約	残存家財の片づけの契約	墓の管理	その他	今後利用したいサービスは	無回答	
総数	100.0 (4,390)	35.0	37.0	19.4	16.4	23.5	24.1	17.3	21.3	15.3	6.7	6.7	7.0	3.8	3.9	33.6	9.9	
性・年齢階級別	男	100.0 (1,949)	33.8	31.5	16.9	15.4	21.8	20.7	21.6	13.1	7.2	7.5	7.3	5.1	3.6	37.8	10.7	
	65～74歳	100.0 (1,115)	36.7	34.5	19.1	18.1	24.3	22.6	23.8	14.6	8.5	8.5	9.0	5.0	3.9	37.7	8.6	
	75～84歳	100.0 (671)	31.0	28.3	14.5	13.7	19.2	18.8	15.2	19.8	12.2	5.8	6.9	6.0	5.8	36.6	11.5	
	85歳以上	100.0 (163)	25.2	23.9	11.7	4.3	14.7	16.0	12.9	14.1	6.1	3.7	3.7	1.8	2.5	33.7	22.1	
	(再掲)75歳以上	100.0 (834)	29.9	27.5	13.9	11.9	18.3	18.2	14.7	18.7	11.0	5.4	6.2	5.2	3.4	37.9	13.5	
	女	100.0 (2,441)	36.1	41.4	21.5	17.2	24.8	26.8	16.9	21.1	17.1	6.3	5.9	6.8	2.7	4.1	30.3	9.2
	65～74歳	100.0 (1,242)	42.8	46.9	25.3	19.8	27.9	30.9	20.3	25.3	20.4	7.6	7.2	8.6	3.1	3.8	28.8	5.5
	75～84歳	100.0 (916)	32.1	38.2	19.2	16.4	22.4	24.7	15.1	18.1	14.6	5.6	5.3	5.6	2.7	4.5	33.6	8.5
	85歳以上	100.0 (283)	19.4	27.6	12.0	8.1	19.4	15.2	7.8	12.0	11.0	2.8	2.5	2.5	1.1	3.9	25.8	27.9
(再掲)75歳以上	100.0 (1,199)	29.1	35.7	17.5	14.4	21.7	22.4	13.3	16.7	13.8	4.9	4.7	4.8	2.3	4.3	31.8	13.1	
世帯類型別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,520)	37.5	40.8	21.5	18.5	25.1	26.8	18.7	22.9	15.6	8.1	7.9	8.8	4.2	4.3	31.5	8.2
	ひとり暮らし	100.0 (938)	35.8	41.9	22.6	19.3	22.3	25.1	18.3	22.9	14.7	9.6	9.0	9.1	4.3	5.2	28.9	6.8
	高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	39.3	41.3	21.4	18.2	27.2	28.3	19.3	22.8	16.4	7.4	7.4	8.5	4.1	3.5	33.2	7.7
	その他	100.0 (129)	30.2	27.9	14.0	15.5	21.7	22.5	14.7	22.5	12.4	5.4	7.0	9.3	3.9	7.0	30.2	23.3
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,835)	31.5	31.7	16.5	13.5	21.1	20.2	15.2	19.0	14.8	4.6	4.7	4.7	3.2	3.3	36.9	11.8

## 5 介護予防

### (1) 介護予防の活動状況

#### ア 区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動

活動を「行っている」人は、12.8%

対象者全員に、現在、介護予防や健康づくりのために、運動機能向上を目的とした活動などを行っているか聞いたところ、区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動を「行っている」割合は12.8%、「行っていない」が76.4%となっている。(図4-14)

「行っている」と答えた人(561人)に参加の頻度を聞いたところ、「週に2回以上」の人の割合は39.9%で、「週に1回程度」の人の割合は37.8%となっている。(図4-15)

また、活動の継続期間を聞いたところ、「1~3年未満」の人の割合は20.9%で、最も高くなっている。(図4-16)

#### ※ 介護予防について

介護予防とは、「要介護状態の発生をできる限り防ぐ(遅らせる)こと、そして要介護状態にあってもその悪化をできる限り防ぐこと、さらには軽減を目指すこと」をいい、国民は、常に健康の保持増進に努めるとともに、要介護状態となった場合においても、進んでリハビリテーションその他の適切な保健医療サービス及び福祉サービスを利用することにより、その有する能力の維持向上に努めるものとされている。

図 4-14 区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動

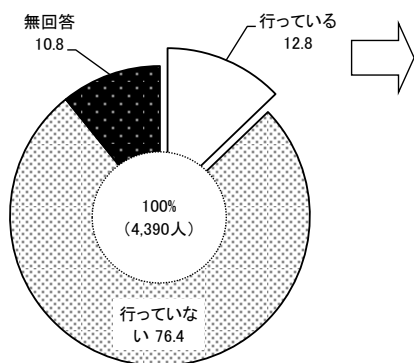


図 4-15 活動への参加頻度

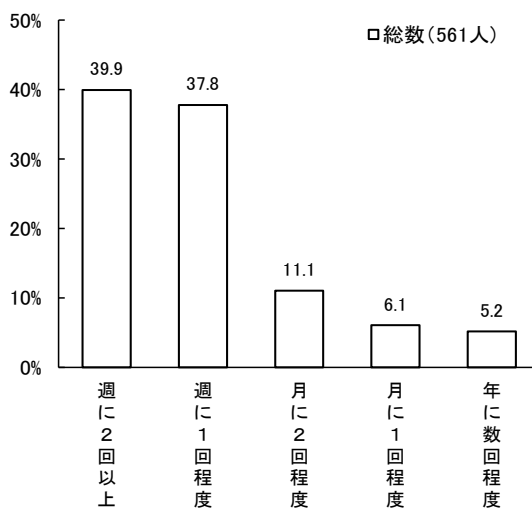
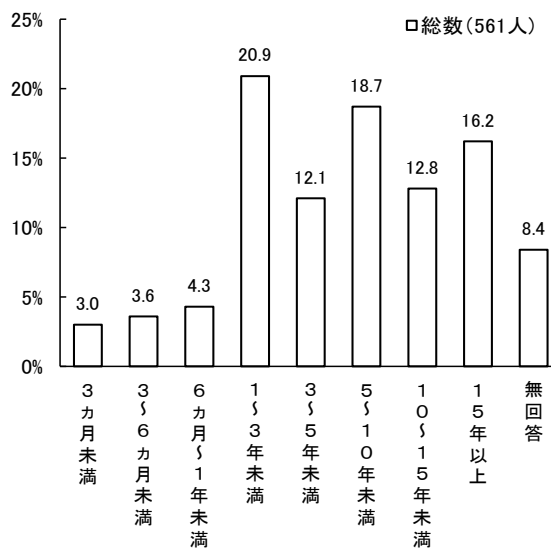


図 4-16 活動の継続期間





## イ ア以外の活動

区市町村や保健所、地域の自主グループ以外の活動を「行っていない」人は、6割超

対象者全員に、現在、介護予防や健康づくりのために、運動機能向上を目的とした活動などを行っているか聞いたところ、区市町村や保健所、地域の自主グループ以外が実施している体操教室などの活動を「行っている」割合は17.6%、「行っていない」が66.6%となっている。(図4-17)

「行っている」と答えた人(773人)に参加の頻度を聞いたところ、「週に2回以上」の人の割合は64.8%で、最も高くなっている。(図4-18)

また、活動の継続期間を聞いたところ、「15年以上」の人の割合は24.7%で、最も高くなっている。(図4-19)

図4-17 区市町村や保健所、地域の自主グループ以外が実施している体操教室などの活動

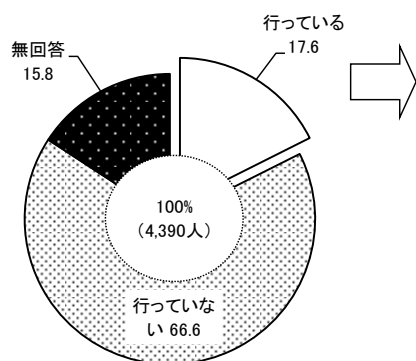


図4-18 活動への参加頻度

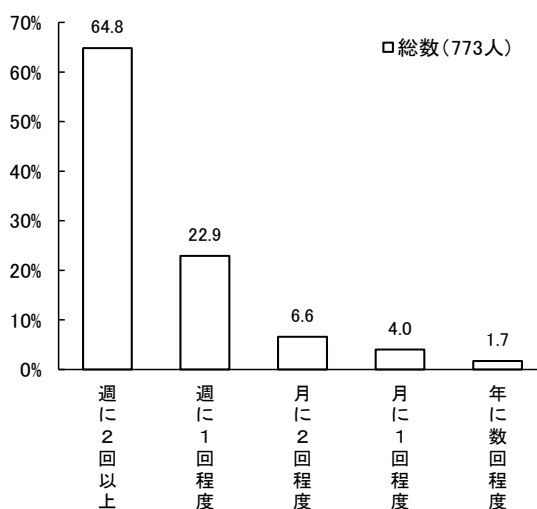
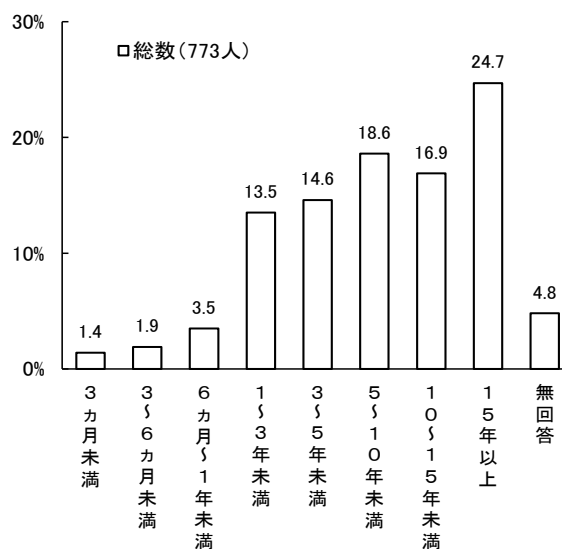


図4-19 活動の継続期間

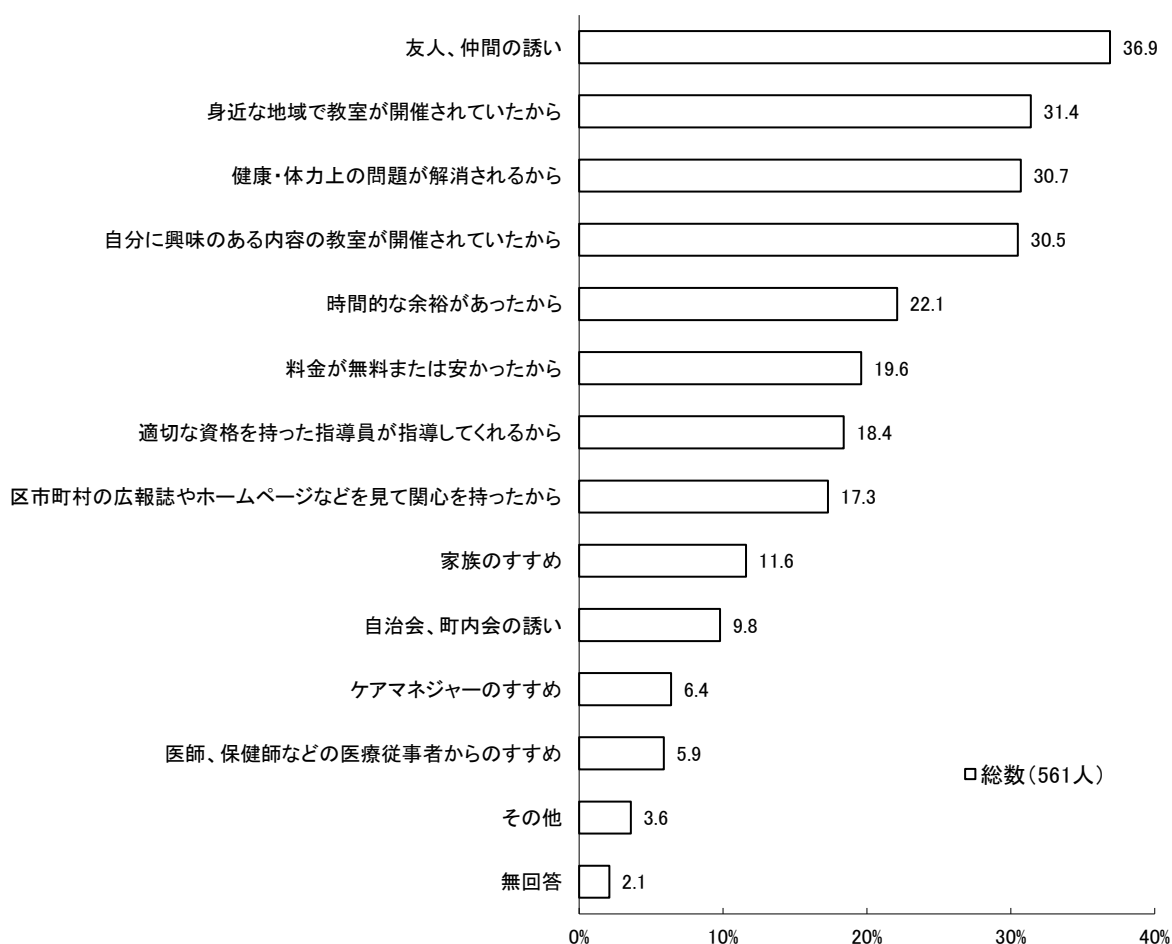


(2) 区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動に参加したきっかけ〔複数回答〕

活動に参加したきっかけは、「友人、仲間の誘い」が3割超

区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動を行っている人（561人）に、そのような教室などに参加したきっかけを聞いたところ、「友人・仲間の誘い」の割合が36.9%、「身近な地域で教室が開催されていたから」が31.4%、「健康・体力上の問題が解消されるから」が30.7%、「自分に興味のある内容の教室が開催されていたから」が30.5%となっている。（図4-20）

図4-20 活動に参加したきっかけ〔複数回答〕

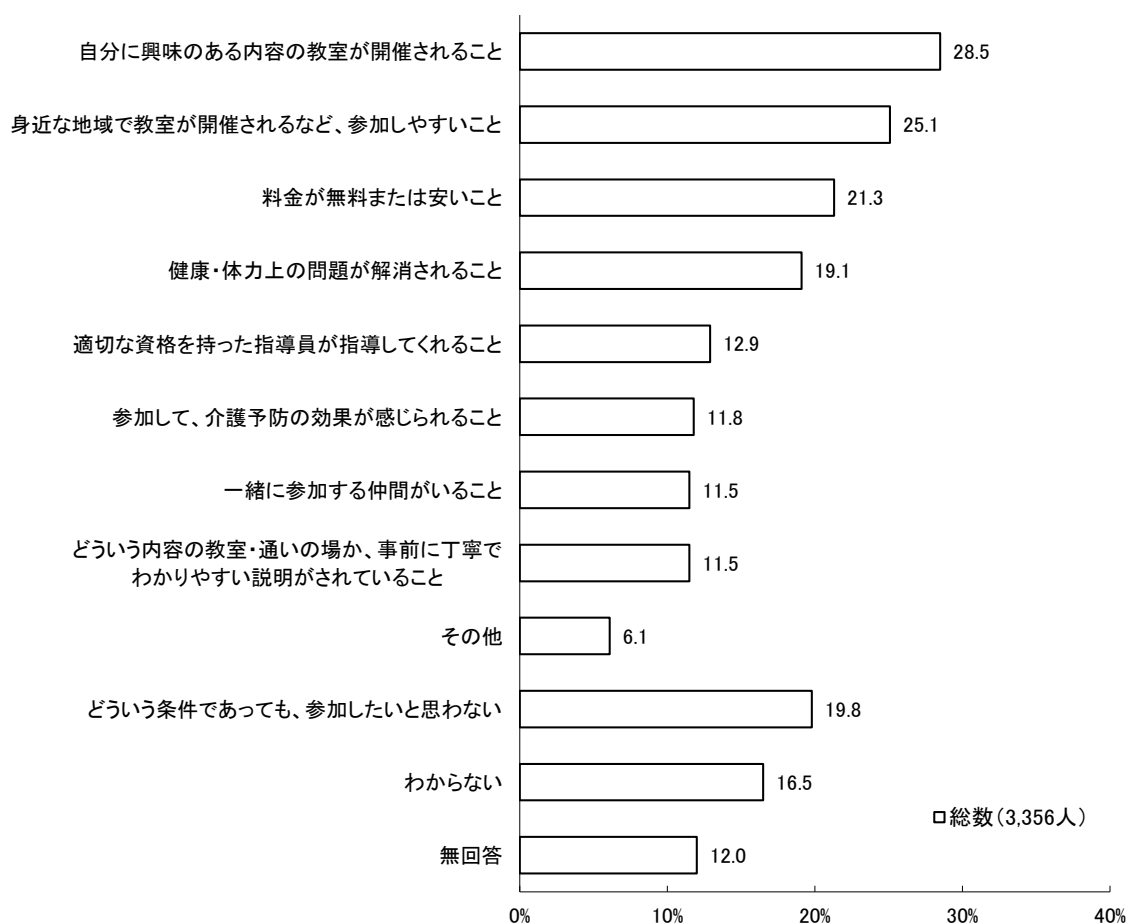


(3) 区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動へ参加するために必要となる条件〔複数回答〕

活動に参加するために必要な条件は、「自分に興味のある内容の教室が開催されること」、「身近な地域で教室が開催されるなど、参加しやすいこと」の割合が高い

区市町村や保健所、地域の自主グループが実施している体操教室などの活動を行っていない人(3,356人)に、そのような教室などに参加するために必要となる条件を聞いたところ、「自分に興味のある内容の教室が開催されること」が28.5%、「身近な地域で教室が開催されるなど、参加しやすいこと」が25.1%となっている。また、「どのような条件であっても、参加したいと思わない」が19.8%であった。(図4-21)

図4-21 参加のために必要となる条件〔複数回答〕



## 6 ロボット介護機器の利用意向

コミュニケーションロボットを「利用したい」は 10.8%、アシストスーツを「利用したい」は 25.0%

対象者全員に、コミュニケーションロボット<sup>注1</sup>を利用したいか聞いたところ、「利用したい」は 10.8%、「利用したいと思わない」は 61.3%となっている。(図 4-22)

また、家族を介護する際（またはすることになったら）アシストスーツ<sup>注2</sup>を利用したいと思うか聞いたところ、「利用したい」は 25.0%、「利用したいと思わない」は 36.9%であった。(図 4-23)

図 4-22 コミュニケーションロボットの利用意向

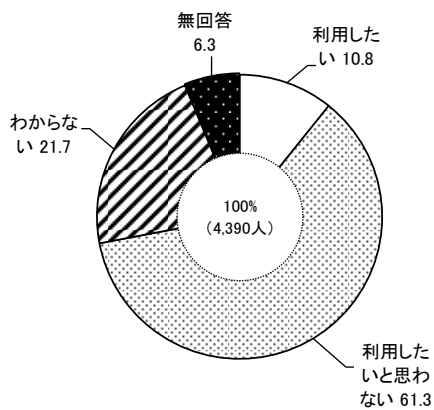
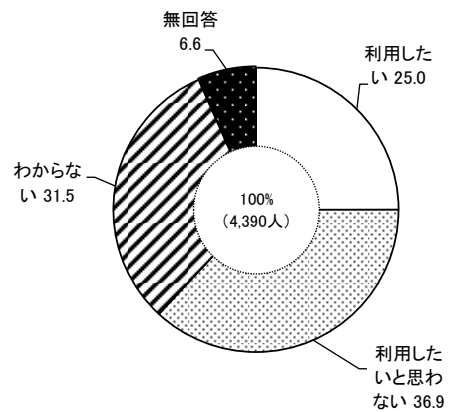


図 4-23 アシストスーツの利用意向



注 1) コミュニケーションロボットとは、人間の呼びかけや動きを学習し、反応しておしゃべりをしたり、動いたりする動物型や人型ロボットを指す。

2) アシストスーツとは、体に装着することで、人を持ち上げる時の腰などへの負担を軽減してくれる装置を指す。



(1) コミュニケーションロボットの利用意向一性・年齢階級、世帯類型別

「利用したい」は、男性 9.5%、女性 11.7%

コミュニケーションロボットの利用意向を性別で見ると、「利用したい」の割合は、男性 9.5%、女性 11.7%で、女性の方が 2.2 ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、65～74 歳では、「利用したい」の割合は、男性 10.8%、女性 15.2%で、1 割となっている。

世帯類型別にみると、「利用したい」の割合は、高齢者のみの世帯が 11.5%で、高齢者のみでない世帯 9.5%で、高齢者のみの世帯の方が 2.0 ポイント高くなっている。(表 4-13)

表 4-13 コミュニケーションロボットの利用意向一性・年齢階級、世帯類型別

		総 数	利 用 し た い	思 利 わ な し た い と	わ か ら な い	無 回 答
総数		100.0 (4,390)	10.8	61.3	21.7	6.3
性・ 年 齢 階 級 別	男	100.0 (1,949)	<u>9.5</u>	64.3	19.3	6.8
	65～74歳	100.0 (1,115)	<u>10.8</u>	64.0	20.5	4.7
	75～84歳	100.0 (671)	8.0	66.3	18.0	7.6
	85歳以上	100.0 (163)	7.4	57.7	16.6	18.4
	(再掲)75歳以上	100.0 (834)	7.9	64.6	17.7	9.7
	女	100.0 (2,441)	<u>11.7</u>	58.8	23.6	5.8
	65～74歳	100.0 (1,242)	<u>15.2</u>	56.6	25.8	2.3
	75～84歳	100.0 (916)	9.0	63.5	22.6	4.9
	85歳以上	100.0 (283)	5.3	53.4	17.3	24.0
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,199)	8.1	61.1	21.4	9.4
世 帯 類 型 別	高齢者のみの世帯	100.0 (2,520)	<u>11.5</u>	61.2	22.1	5.1
	ひとりぐらし	100.0 (938)	10.9	64.1	21.6	3.4
	高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	11.6	60.4	22.7	5.2
	その他	100.0 (129)	14.7	49.6	19.4	16.3
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,835)	<u>9.5</u>	61.7	21.0	7.7

(2) アシストスーツの利用意向一性・年齢階級、世帯類型別

「利用したい」は、男性 27.4%、女性 23.1%

アシストスーツの利用意向を性別で見ると、「利用したい」の割合は、男性 27.4%、女性 23.1%で、男性の方が 4.3 ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて、「利用したい」の割合が低くなっている（12.9%～31.1%、6.4%～30.8%）。65～74歳では、「利用したい」の割合が、男性 31.1%、女性 30.8%で、男女とも 3割を超えている。

世帯類型別にみると、高齢者夫婦のみの方は、「利用したい」の割合が 30.5%で、総数の割合（25.0%）に比べて高くなっている。（表 4-14）

表 4-14 アシストスーツの利用意向一性・年齢階級、世帯類型別

		総数	利用したい	利用しない	わからない	無回答
総数		100.0 (4,390)	25.0	36.9	31.5	6.6
性・年齢階級別	男	100.0 (1,949)	27.4	37.7	27.7	7.3
	65～74歳	100.0 (1,115)	31.1	37.1	26.7	5.0
	75～84歳	100.0 (671)	24.7	38.7	28.5	8.0
	85歳以上	100.0 (163)	12.9	36.8	30.7	19.6
	(再掲)75歳以上	100.0 (834)	22.4	38.4	28.9	10.3
	女	100.0 (2,441)	23.1	36.3	34.5	6.1
	65～74歳	100.0 (1,242)	30.8	30.8	36.0	2.4
	75～84歳	100.0 (916)	17.7	43.1	33.8	5.3
	85歳以上	100.0 (283)	6.4	38.9	30.4	24.4
	(再掲)75歳以上	100.0 (1,199)	15.0	42.1	33.0	9.8
世帯類型別	高齢者のみ世帯	100.0 (2,520)	24.4	38.2	31.7	5.7
	ひとり暮らし	100.0 (938)	15.6	46.6	32.7	5.1
	高齢者夫婦のみ	100.0 (1,453)	30.5	33.2	31.2	5.0
	その他	100.0 (129)	20.2	33.3	29.5	17.1
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,835)	25.8	35.4	31.1	7.7